

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-5

< 第3週 >

手足口病の定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い / その他最新動向



注目すべき感染症
P.6-8

< インフルエンザ >

第3週の定点当たり報告数は22.58となり、前週よりも大きく増加した



病原体情報
P.9-11

インフルエンザウイルス 2012/13シーズン



速報
P.12-13

2012/13シーズンの流行入り前に起きたB型インフルエンザウイルス(Victoria系統)による集団発生の2事例 - 長野県



海外感染症情報
P.14-19

中米でのコレラの流行状況について / スーダンで黄熱の患者が発生しています / インフルエンザ



感染症の話
P.20-25

< トキソプラズマ症 >

妊娠中の女性がトキソプラズマに初感染した場合、胎児に垂直感染する可能性があり注意を要する



読者のコーナー
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(3週)
P.26-31



3週のデータ
P.32-45



発生動向総覧

< 第3週コメント > 1月23日集計分

全数報告の感染症

注意: これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が集計の期日以降に届くこともあります。それらについては一部を除いて発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。

感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを示します。

1類感染症

報告なし

2類感染症

結核276例

3類感染症

細菌性赤痢3例

菌種: *S. flexneri*(B群)2例__感染地域: インド2例

S. sonnei(D群)1例__感染地域: 愛知県

腸管出血性大腸菌感染症9例(有症者5例、うちHUS なし)

感染地域: 国内8例、フランス1例

国内の感染地域: 広島県3例、青森県1例、秋田県1例、千葉県1例、京都府1例、不明1例

年齢群: 10代(3例)、20代(2例)、30代(1例)、40代(3例)

血清型・毒素型: O157 VT1・VT2(4例)、O157 VT2(2例)、O91 VT1(1例)、O142 VT1(1例)、O157 VT1(1例)

累積報告数: 24例(有症者15例、うちHUS 1例、死亡なし)

腸チフス1例

感染地域: フィリピン

4類感染症

A型肝炎1例

感染地域: ブラジル

つつが虫病3例

感染地域: 鹿児島県2例、愛知県1例

デング熱4例(デング熱3例、デング出血熱1例)

感染地域: フィリピン2例、インドネシア1例、ケニア/タンザニア1例

マラリア2例

三日熱1例__感染地域: インド

熱帯熱1例__感染地域: タンザニア

レジオネラ症12例(肺炎型11例、ポンティアック型1例、うち1例死亡)

感染地域: 愛知県2例、宮城県1例、茨城県1例、栃木県1例、東京都1例、静岡県1例(温泉)、大阪府1例、岡山県1例、福岡県1例、国内(都道府県不明)2例

年齢群: 40代(1例)、50代(1例)、60代(2例)、70代(2例)、80代(4例)、90代以上(2例)

5類感染症

アメーバ赤痢17例(腸管アメーバ症13例、腸管外アメーバ症4例)

感染地域: 東京都2例、岩手県1例、宮城県1例、茨城県1例、千葉県1例、滋賀県1例、香川県1例、国内(都道府県不明)5例、神奈川県/台湾1例、台湾1例、米国1例、国内・国外不明1例

感染経路: 性的接触3例(異性間2例、異性間・同性間不明1例)、
経口感染1例、経口感染/性的接触(異性間)1例、不明
12例

ウイルス性肝炎2例 B型2例__感染経路: 性的接触2例(異性間1例、異性間・同性間不
明1例)

急性脳炎5例 インフルエンザウイルスA型3例__年齢群: 4歳(1例)、5歳(2例)
インフルエンザウイルス型不明1例__年齢群: 7歳
ロタウイルス1例__年齢群: 7歳

劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例
年齢群: 70代(1例)、80代(1例)

後天性免疫不全症候群11例(無症候11例)
感染地域: 国内11例
感染経路: 性的接触11例(同性間10例、異性/同性間1例)

梅毒14例(早期顕症I期3例、早期顕症II期1例、先天梅毒1例、無症候9例)

バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例
遺伝子型: 不明__菌検出検体: 尿

風しん44例(検査診断例35例、臨床診断例9例)
感染地域: 東京都14例、埼玉県5例、神奈川県3例、福岡県3例、
大阪府2例、長野県1例、愛知県1例、宮崎県1例、国内
(都道府県不明)14例
年齢群: 4歳(1例)、5～9歳(1例)、10～14歳(2例)、15～19歳(1
例)、20～24歳(3例)、25～29歳(8例)、30～34歳(9例)、
35～39歳(13例)、40代(5例)、50代(1例)
累積報告数: 154例(検査診断例120例、臨床診断例34例)

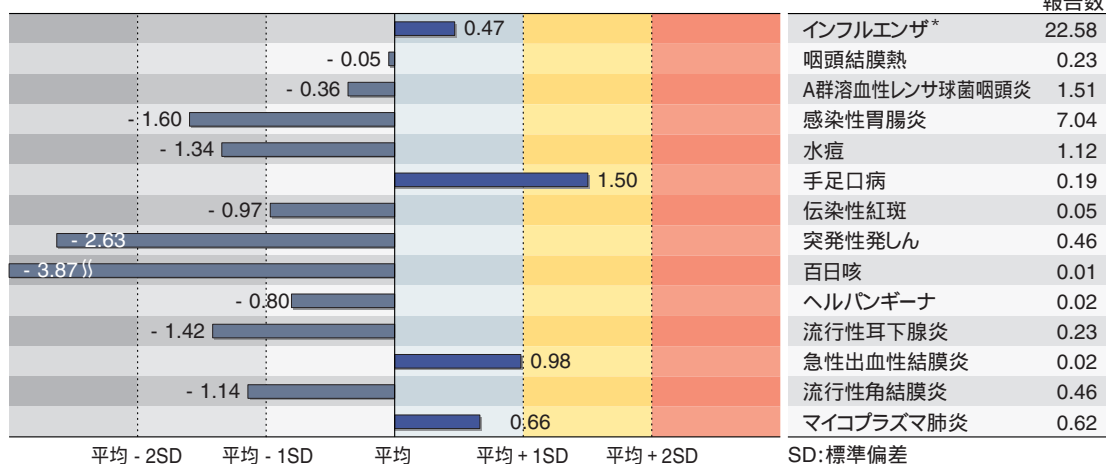
麻しん6例〔麻しん(検査診断例1例、臨床診断例2例)、修飾麻しん(検査診断例3例)〕
感染地域: 埼玉県1例、千葉県1例、東京都1例、神奈川県1例、国
内(都道府県不明)2例
年齢群: 0歳(1例)、2歳(1例)、4歳(1例)、20～24歳(1例)、30～
34歳(1例)、35～39歳(1例)
累積報告数: 10例〔麻しん(検査診断例1例、臨床診断例4例)、修
飾麻しん(検査診断例5例)〕

(補)他にマラリア1例の報告があったが削除予定。また、2013年第2週までに診断されたものの
報告遅れとして、細菌性赤痢1例(菌種: *S. sonnei*(D群)__感染地域: インド)、パラチフス
1例(感染地域: ミャンマー)、E型肝炎1例(感染地域: 東京都__感染源: 不明)、エキノコッ
クス症3例(多包条虫3例__感染地域: 北海道3例)、チクングニア熱1例(感染地域: フィリピン)、
マラリア1例(熱帯熱__感染地域: タンザニア)、急性脳炎3例〔インフルエンザウイル
スA型1例__年齢群: 20代・病原体不明2例__年齢群: 1歳(1例)、3歳(1例)〕、劇症型溶血
性レンサ球菌感染症2例〔40代(1例)、70代(1例)〕、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例
(遺伝子型: *VanC* 1例__菌検出検体: 血液・遺伝子型: 不明1例__菌検出検体: 胸水)など
の報告があった。

定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

定点把握疾患の報告の過去5年間の同時期との比較(第3週)



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)との差をグラフ上に表現した。(*2009年のパンデミックの影響を受けています。)

インフルエンザ

定点当たり報告数は第43週以降増加が続いている。都道府県別では福島県(38.63)、茨城県(36.18)、群馬県(35.66)、長崎県(34.50)、千葉県(34.17)が多い。

小児科定点報告疾患

RSウイルス感染症の報告数は1,663例と減少した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約77%を占めている。

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では宮崎県(1.14)、鹿児島県(0.58)、熊本県(0.52)が多い。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では石川県(4.62)、富山県(4.38)、山形県(3.50)が多い。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では宮崎県(14.67)、熊本県(13.04)、高知県(11.37)が多い。

水痘の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では沖縄県(2.38)、鹿児島県(2.18)、福岡県(2.02)が多い。

手足口病の定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別では福岡県(1.13)、熊本県(0.90)、沖縄県(0.71)が多い。

伝染性紅斑の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では岩手県(0.58)、富山県(0.24)、長野県(0.17)が多い。

百日咳の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では沖縄県(0.09)、石川県(0.07)、佐賀県(0.05)が多い。

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は減少した。都道府県別では長崎県(0.23)、宮城県(0.10)、福井県(0.09)が多い。

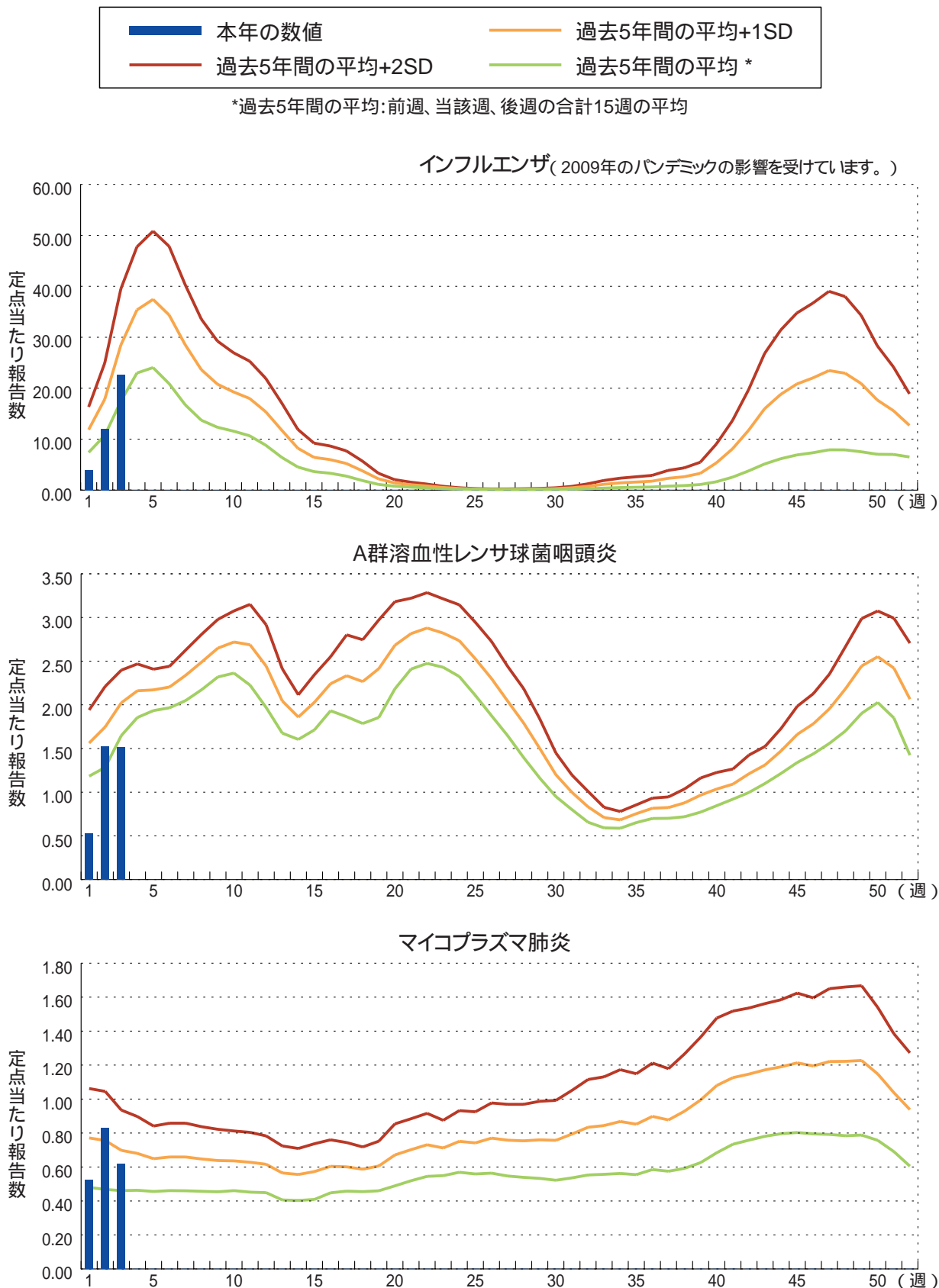
流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では岩手県(0.88)、山形県(0.77)、福井県(0.73)が多い。

基幹定点報告疾患

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では福島県(2.43)、青森県(2.33)、宮城県(2.00)が多い。

図. 主要定点把握疾患の過去5年間との週別比較(2013年第3週)

青のバーで示す本年の定点当たり報告数が赤のラインを超えているときには、過去5年間の週と比較してかなり多いことを示す。





注目すべき感染症

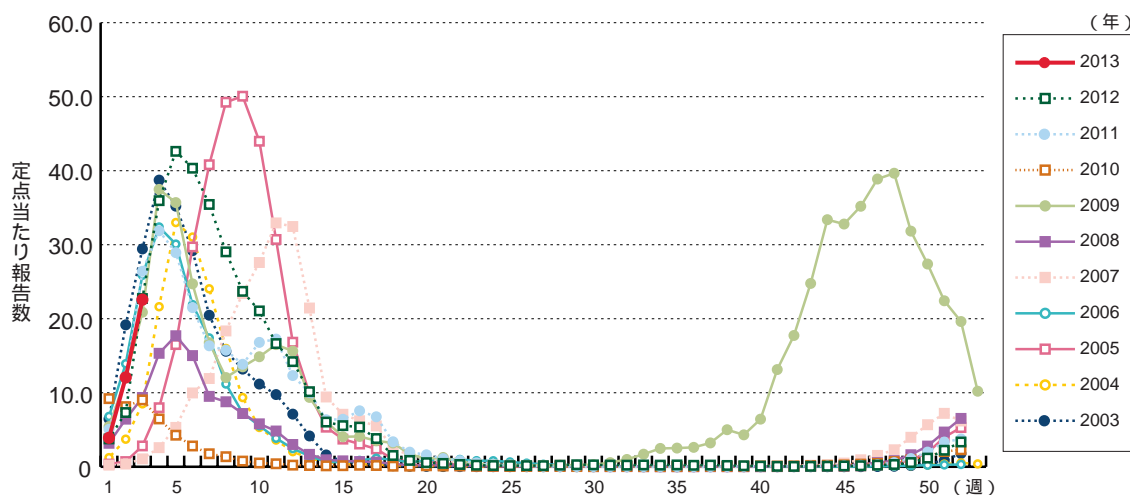
インフルエンザ

インフルエンザ(Influenza)は、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられている。典型的な発症例では1～4日間の潜伏期間を経て、突然に発熱(38 以上の高熱) 頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続く。通常は1週間前後の経過で軽快するが、いわゆる「かぜ」と比べて全身症状が強いのが特徴である。主な感染経路はくしゃみ、咳、会話等で口から発する飛沫による飛沫感染であり、他に接触感染もあるといわれている(CDCホームページ: <http://www.cdc.gov/flu/professionals/infectioncontrol/healthcaresettings.htm>)。

インフルエンザの感染対策としては、飛沫感染対策としての咳エチケット、接触感染対策としての手洗い等的手指衛生が重要である。インフルエンザでは、たとえ感染者であっても、全く症状のない不顕性感染例や、感冒様症状のみでインフルエンザウイルスに感染していることを本人も周囲も気が付かない軽症例も少なくないため、特にヒト-ヒト間の距離が短く、濃厚な接触機会の多い学校、幼稚園、保育園等の小児の集団生活施設においては可能である場合は職員も含めて全員が咳エチケット、手指衛生を実行するべきである(厚生労働省インフルエンザQ&A: <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/qa.html>)。

感染症発生動向調査では、全国約5,000カ所(小児科定点約3,000、内科定点約2,000)のインフルエンザ定点からの報告に基づいてインフルエンザの発生動向を分析している。インフルエンザの定点当たり報告数は、2012年第43週以降増加が続いている。2013年第3週の定点当たり報告数は22.58(報告数111,475)となり、前週(定点当たり報告数12.07)よりも大きく増加した(図1)。都道府県別では福島県(38.63)、茨城県(36.18)、群馬県(35.66)、長崎県(34.50)、千葉県

図1. インフルエンザの年別・週別発生状況(2003～2013年第3週)



(34.17) 福岡県(32.92) 埼玉県(32.13) 栃木県(32.08) 佐賀県(31.45)の順となっており、第2週と同様に第3週も全ての都道府県で前週の報告数より増加がみられた(図2)。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると140万人(95%信頼区間 : 129万人 ~ 151万人) 暫定値 となり、5 ~ 9歳約20万人(14.3%) 30代約19万人(13.6%) 0 ~ 4歳、10 ~ 14歳、20代、40代がそれぞれ約16万人(11.4%)の順となっている。14歳以下の小児の割合が前週より大きく増加しているが、まだ成人層が55.0%と半数以上を占めている(図3)。2012年第36週以降これまでの累積の推計受診患者数は304万人(95%信頼区間 : 291万人 ~ 317万人) 暫定値 となった。

図2. インフルエンザの都道府県別定点当たり報告数の推移(2013年第1 ~ 3週)

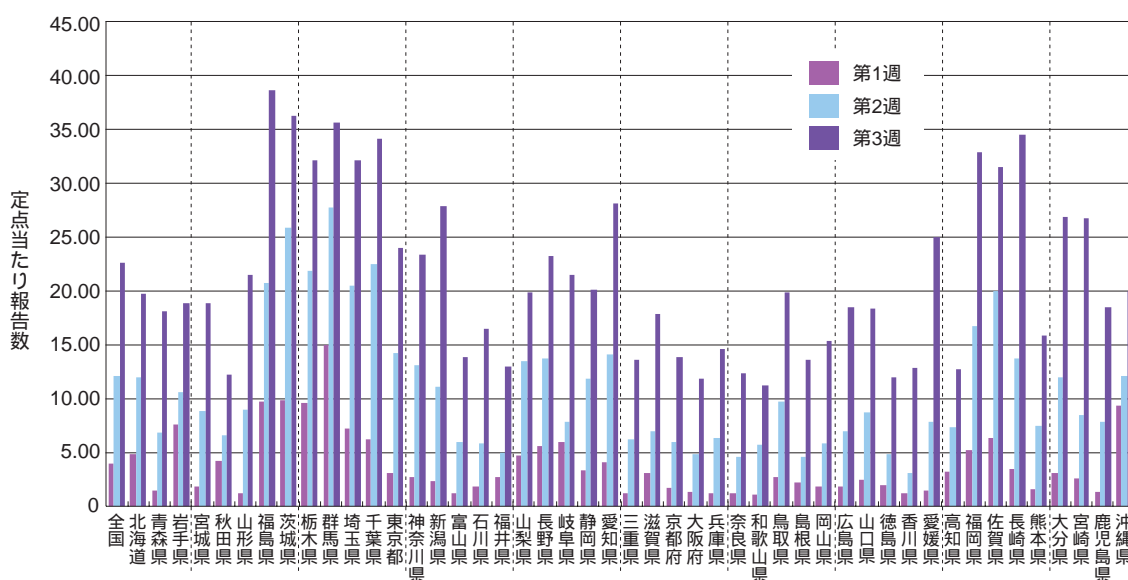
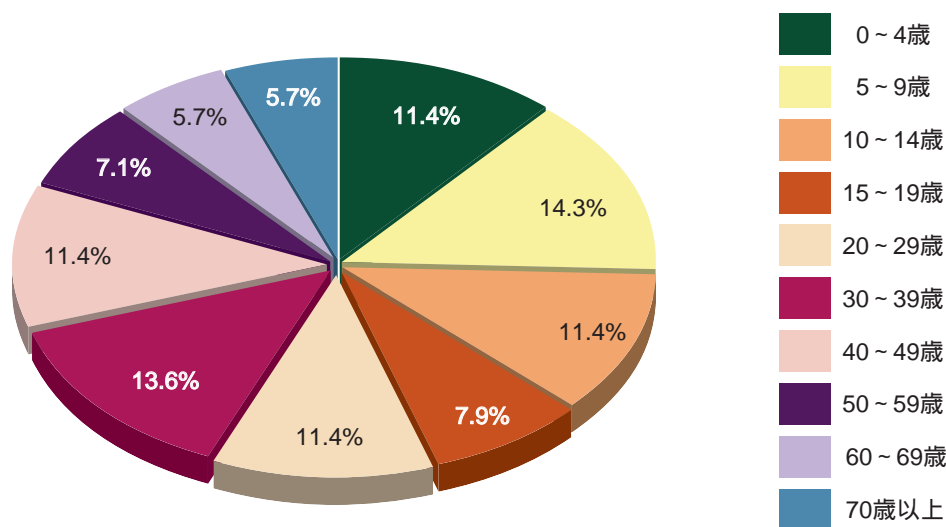
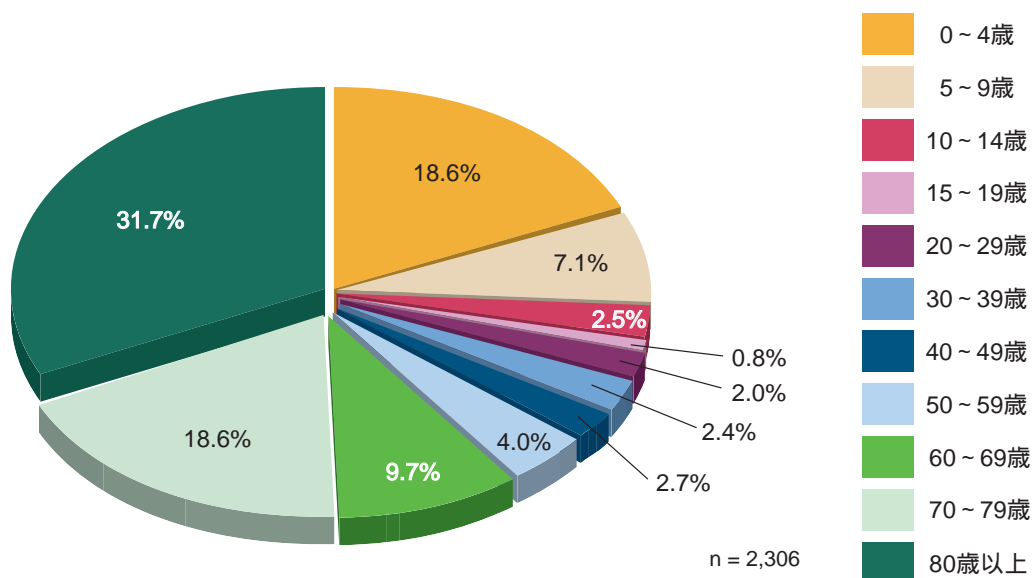


図3. インフルエンザ推計受診患者数(暫定値)の年齢群別割合(2013年第3週)



全国約500カ所の基幹病院定点からのインフルエンザによる入院患者の報告数をみると、2013年第3週の報告数は980人であり、2012年第36週以降これまでの累積報告数は2,306人となった。累積報告数の年齢群別内訳は、80歳以上732人(31.7%)、0~4歳、70代がそれぞれ428人(18.6%)、60代223人(9.7%)、5~9歳164人(7.1%)の順であり、高齢者と年少児の割合が高い(図4)。

図4. インフルエンザ基幹定点からの入院の累積報告数年齢群別割合
(2012年第36週 ~ 2013年第3週)



2012年第36週 ~ 2013年第3週に国内では866検体のインフルエンザウイルスの検出が報告されており、AH1pdm09が31件(3.6%)、AH3亜型(A香港型)774件(89.4%)、B型61件(7.0%)とこれまでのところAH3亜型が大半を占めている。

第3週に入ってもインフルエンザ患者数の大幅な増加が続いており、全国的に本格的な流行となってきている。今後ともインフルエンザの発生動向には注意深い観察が必要である。



病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr.html>)からの引用です。

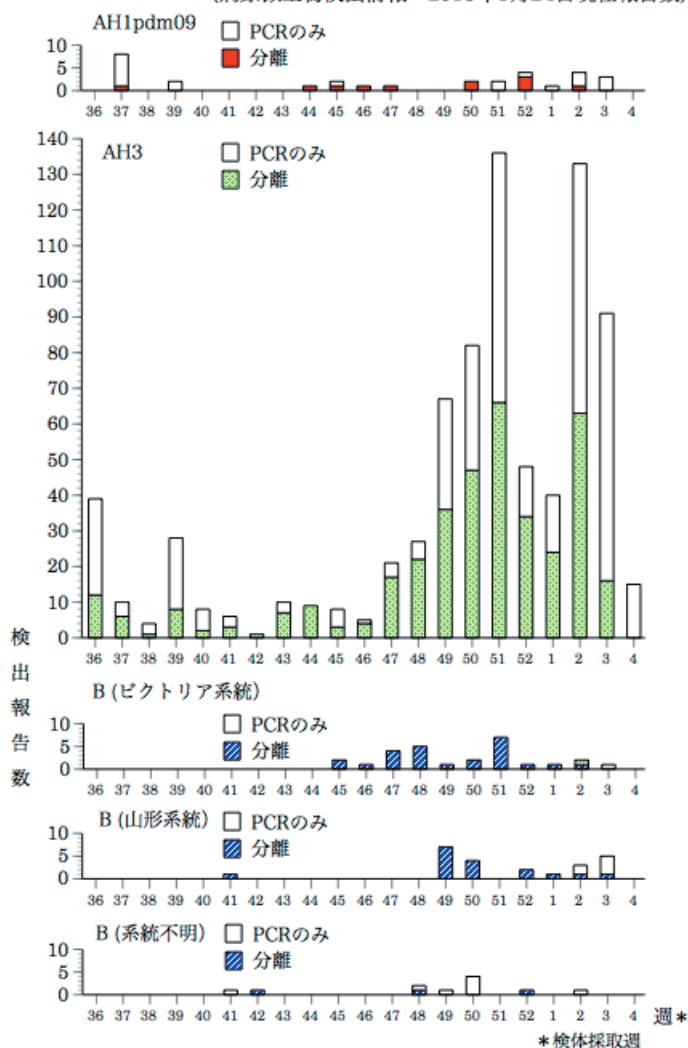
国立感染症研究所・感染症情報センターには各都道府県市の地方衛生研究所(地研)から「病原体個票」と「集団発生病原体票」が報告されています。これには感染症発生動向調査の定点およびその他の医療機関、保健所等で採取された検体から検出された病原体の情報が含まれています。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2013年1月24日現在報告分)

インフルエンザウイルス 2012/13シーズン

2012/13シーズン(2012年第36週/9月～2013年第35週/8月)は当初よりAH3亜型が主に検出され、2012年第47週以降増加し始めた。年末年始に一旦減少したが、2013年第2週から再増加している。

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2012年第36週～2013年第4週
(病原微生物検出情報：2013年1月24日現在報告数)



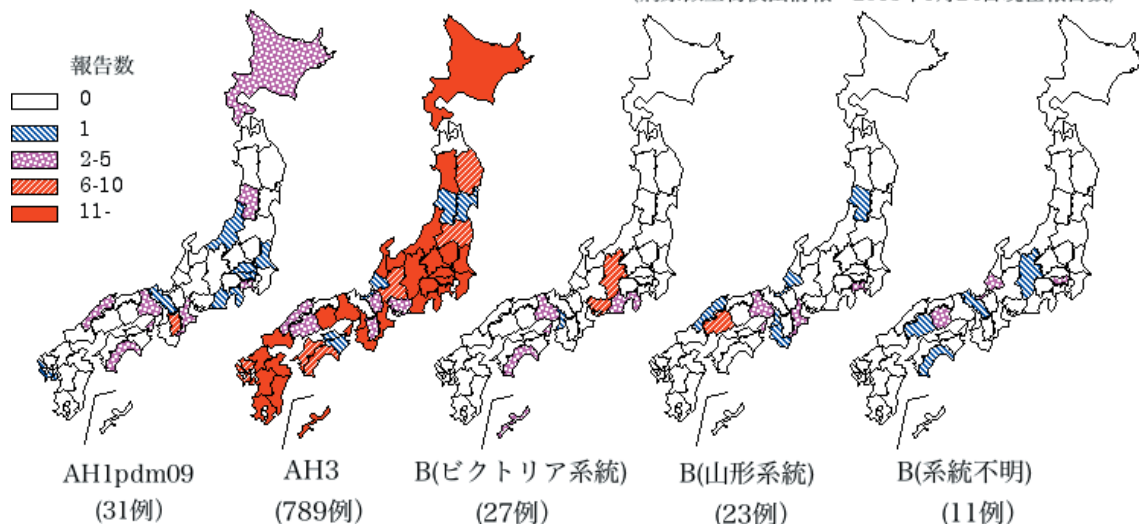
(データは現在週および過去の週に遡って追加が見込まれる)
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



Infectious Agents Surveillance Report

2012年第36週～2013年第4週の累積では、AH1pdm09が15都道府県から31件、AH3亜型が44都道府県から789件、B型はビクトリア系統株が7府県から27件(本号12ページ「速報」参照)、山形系統株が9府県から23件(前号20ページ「速報」参照)、系統不明株が7都府県から11件報告されている。

都道府県別インフルエンザウイルス分離・検出報告状況、2012年第36週～2013年第4週
(病原微生物検出情報：2013年1月24日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

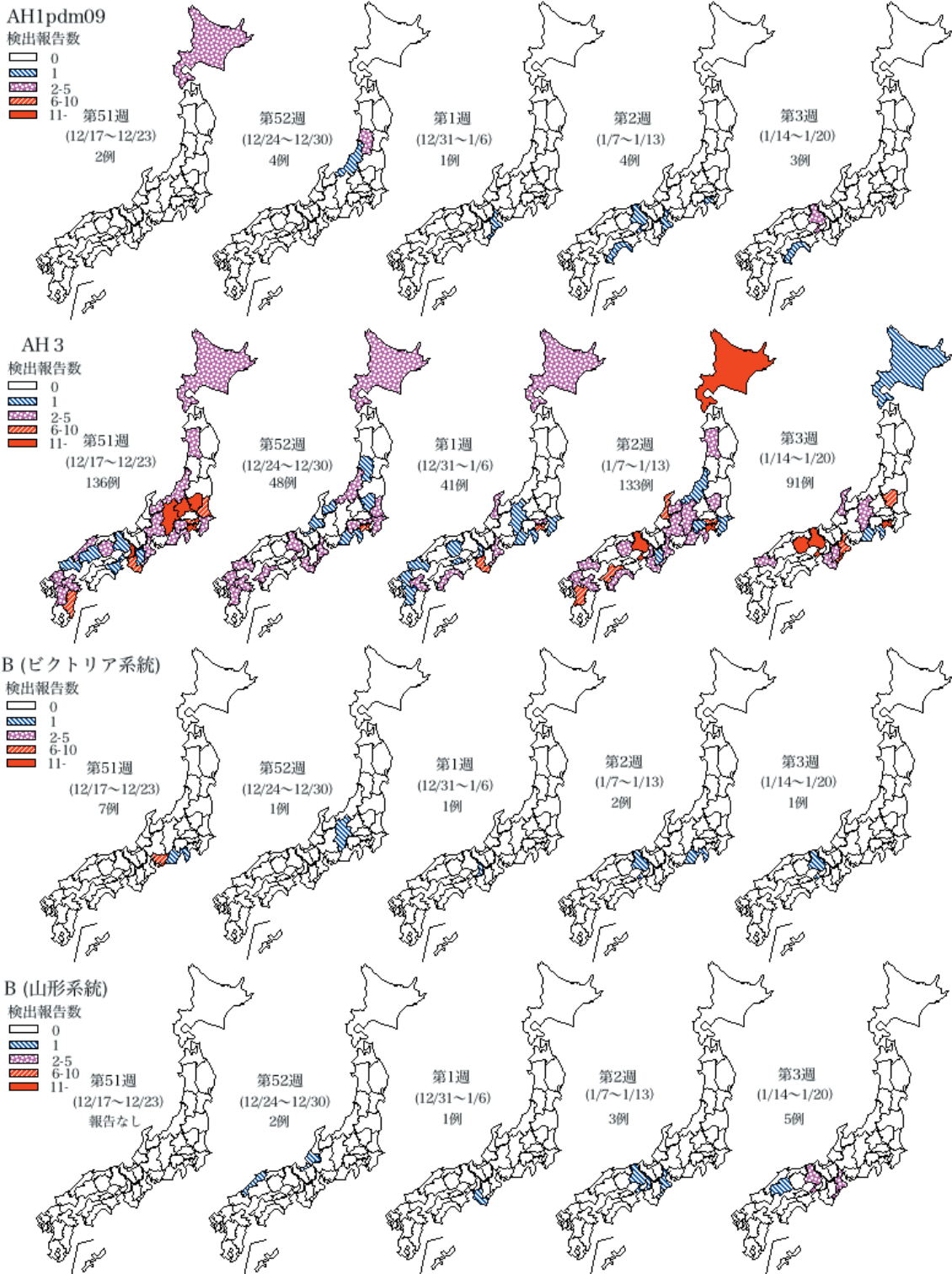


2012年第51週～2013年第3週の5週間では、AH1pdm09が7道県から14件(山形県、兵庫県各3件、北海道、三重県、高知県各2件、神奈川県、新潟県各1件)、AH3亜型が34都道府県から449件(神奈川県79件、兵庫県34件、北海道、和歌山県各25件、栃木県24件、三重県21件、東京都20件、長野県19件、岡山県18件、大阪府17件、熊本県13件など)、B型はビクトリア系統株が5府県から12件(愛知県6件、静岡県、兵庫県各2件、長野県、大阪府各1件)、山形系統株が7府県から11件(三重県、兵庫県各3件、福井県、大阪府、和歌山県、島根県、広島県各1件)、系統不明株が2県から2件(福井県、高知県各1件)報告されている。

このうち、輸入例からの検出報告はなかった。

インフルエンザウイルス分離・検出速報は <http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html> を参照ください。

週別都道府県別インフルエンザウイルス分離・検出報告状況、2012年第51週～2013年第3週
 (病原微生物検出情報：2013年1月24日現在報告数)



* 各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を検体採取週別に図に示した





2012/13シーズンの流行入り前に起きたB型インフルエンザウイルス(Victoria系統)による集団発生の2事例 - 長野県

長野県内で2012/13シーズンの流行入り前の11月下旬にインフルエンザ様疾患の集団発生が2事例発生し、患者からB型インフルエンザウイルスが検出されたので、その事例の概要を報告する。

事例1は伊那保健所管内の小学校で発生し、2012(平成24)年11月21日(第47週)から学級閉鎖の措置がとられた。このクラスは11月20日の時点で28名のうち11名が欠席していた。

事例2は諏訪保健所管内の小学校で発生し、11月28日(第48週)から学級閉鎖の措置がとられた。このクラスは11月27日の時点で24名のうち7名が欠席していた。

なお、どちらの小学校も学級閉鎖は当該クラスのみであった。

ウイルス検査のため、事例1は4名(10～11歳)、事例2は5名(8～9歳)の欠席者から採取された咽頭ぬぐい液が当所に搬入された。被検者は発熱(37.3～39.0℃)や咳が主症状であり、他に上気道炎(咽頭炎)や頭痛、胃腸炎等を訴える者もいた。

搬入された9検体について、リアルタイムRT-PCR法による遺伝子検査を実施したところ、すべての検体からB型インフルエンザウイルスのNS遺伝子を検出した。また、MDCK細胞、CaCo-2細胞およびLLC-MK2細胞を用いた培養により分離できた8検体(事例1:4検体、事例2:4検体)について、0.75%モルモット血球を用いたHI試験を実施したところ、すべてB型のVictoria系統と同一と判定された。

事例1の分離株は、国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センターで実施した遺伝子解析の結果(事例2の分離株は今後解析予定)、HA1遺伝子領域(1,041bp)において、4株すべて2011/12シーズンワクチン株(B/Brisbane/60/2008)と同一の1Aクレードに分類された。

以上の結果から、これらの事例はB型(Victoria系統)が原因であったと推定された。両事例の発生した小学校は隣接した保健所管内に位置し、事例1の翌週に事例2が発生しており、また流行入り前の発生であったことから、この2事例は同一ウイルスによって発生した可能性もあり、今後事例2の分離株の遺伝子解析を実施して、両事例の関連性についても検討する予定である。

当該2事例の発生以降、第51週(12月17日～23日)には県内の複数地域から集団発生が報告されているが、患者から検出されたウイルスはすべてAH3亜型であり、B型による流行は認められなかったことから、当該2事例はB型(Victoria系統)による地域限局的な流行であったと考えられた。全国的においても、この2事例発生の同時期に沖縄県や高知県でB型(Victoria系統)の検出が報告されているが¹⁾、B型インフルエンザウイルスがなぜ流行入り前、地域限局的に流行したのかは今のところ不明であり、今後も遺伝子解析や疫学調査を継続し、検討する必要があると思われる。

引用文献

- 1) 国立感染症研究所HP, 「インフルエンザウイルス分離・検出状況」
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html> (2013年1月9日確認)

長野県環境保全研究所

小林広記 嶋崎真実 内山友里恵 中沢春幸 上田ひろみ

笠原ひとみ 宮坂たつ子 藤田 暁

長野県伊那保健福祉事務所(保健所)

山口 淳

長野県諏訪保健福祉事務所(保健所)

柳澤あやか

(IASR 2013年2月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照)



海外感染症情報

*関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

中米でのコレラの流行状況について

2013年1月15日 PAHO

1月15日に公表された汎米保健機関(PAHO)の情報によりますと、中米でのコレラの発生状況は、下記の通りです。

ハイチの状況

ハイチでは2010年10月以降、コレラの流行が続いています。流行の始まりから1月7日までに報告されたコレラの患者は合計638,511人に達しており、そのうち352,532人(55%)が入院し、7,943人が死亡しています。2011年11月以降、全体の致死率は1.2%ですが、地域によって差があり、グランド・アンセ(Grand Anse)では4.0%ですが、ポルトープランス(Port-au-Prince)では0.7%です。

2012年10月以降、コレラの患者数と死亡者数は減少傾向にありますが、今年の第1週は、昨年の同時期に比べて患者数と死亡者数が多くなっています。

ドミニカ共和国の状況

ドミニカ共和国でも、2010年11月以降、コレラの流行が続いています。流行の始まりから今年の第1週までに29,490人の疑い患者が報告されており、そのうち426人が死亡しています。2010年は雨季の到来とともに流行が広がり、致死率は1.7%、発病率は0.2%に増加しました。2011年には流行は持続的に減少しましたが、特定の地域の集団発生に関連するピークがみられ、年末の致死率は0.8%、累積発病率は0.3%でした。

今年の第1週は、ラ・アルタグラシア(La Altagracia)の刑務所内でコレラの集団発生があり、37人の患者と2人の死亡者が報告されています。この集団発生は、汚染された飲料水と過密な環境に関連しています。ドミニカ共和国の当局によって、水や衛生状態の改善やドキシサイクリンの単回投与による化学予防などの措置が講じられています。

キューバの状況

キューバでは、国際保健規則の担当窓口から、今年1月6日現在、セロ(Cerro)やハバナ(Havana)で食品の取り扱いに関連して急性下痢性疾患が増加したと報告されました。コレラの疑い患者から採取された検体は、ペドロ・コウリ熱帯医学研究所で解析されました。1月14日時点のコレラの確定患者数は51名で、O1型のエルトル・小川型のコレラ菌でした。

その前には、ハリケーン「サンディ」が通過した後に、カマグエイ(Camagüey)、グアンタナモ(Guantanamo)、サンティアゴ・デ・クーバ(Santiago de Cuba)の3州で、合計47人の確定患者が報告されました。

キューバでは、手指衛生や食品・水を摂取する時の注意に重点を置いた健康教育が強化されているほか、飲料水の確保や厳格な食品衛生対策が継続されています。

スーダンで黄熱の患者が発生しています(更新1)

2013年1月23日 EMRO

1月23日付で世界保健機関(WHO)東地中海事務所(EMRO)から公表された情報によりますと、黄熱の患者は35地域以上で発生しています。これまでに、840人を超える黄熱の患者が報告されており、このうち171人が死亡しています。

ダルフルでは、昨年11月から今年1月の第1週にかけて、黄熱に対する緊急集団予防接種キャンペーンの第1段階と第2段階が実施され、300万人以上に黄熱の予防接種が行われました。予防接種キャンペーンの第3段階は、必要なワクチンが届き、1月26日に開始される予定です。

また、国内の他の地域における黄熱のリスクとさらなる予防接種キャンペーンの必要性を評価するため、国の黄熱リスク評価が進められています。

インフルエンザ - 更新177

2013年1月18日 WHO

【要約】

- ・ 北米のインフルエンザの活動性は高いままで、一部の指標では、この地域ではピークに達しているようです。米国とカナダの重症度を示す一部の指標では、最近の数年間よりわずかに高くなっています。流行は、例年より早く始まり、他の呼吸器ウイルスの循環と一致しています。北米では、インフルエンザA(H3N2)が優勢で、インフルエンザA(H1N1)pdm09は希です。
- ・ ヨーロッパとアジアの温帯地域の多くの国では、インフルエンザの活動性は増加していると報告されています。ヨーロッパでは、インフルエンザA(H1N1)pdm09が北米に比べて、比較的顕著にみられています。
- ・ 地中海東部とアフリカ北部の数か国では、インフルエンザが陽性となる検体の検出は減少していると報告されています。この地域ではインフルエンザA(H1N1)pdm09が優勢です。
- ・ アジアの熱帯地域では、インフルエンザの活動性は過去数週間と同様であり、低い水準での伝播が続いています。
- ・ サハラ以南のアフリカでは、ほとんどの国で、インフルエンザの活動性は減少しています。
- ・ カリブ海、中米、南米の熱帯地域では、インフルエンザの活動性は低い水準に減少していますが、ボリビアは例外で、インフルエンザA(H3N2)の伝播が増加しています。
- ・ 現在、南半球では、インフルエンザの活動性はシーズンオフの水準です。

【北半球の温帯地域】

・ 北米

北米では、インフルエンザの活動性が昨年12月初めから今年に入り、急激に増加しており、予想以上に早くなっています。インフルエンザの活動性の一部の指標では、まだ上昇していますが、他の指標ではピークに達した可能性があるようです。

カナダでは、インフルエンザ様疾患(ILI)の受診率は、昨年12月上旬から増加していましたが、1月第1週目にわずかに減少しました。ILI受診率は、前回の報告の67.1/1,000人から、58.7人に減少しました。受診率が最も高かったのは、5歳から19歳の年齢層で、次いで5歳未満の小児でした。インフルエンザウイルスが陽性となった検体の割合も、12月末の34.5%から1月初めは32.4%とわずかに減少しました。しかしインフルエンザの活動性が広範囲に拡大していると報告してい

る地域数が増加しました(アルバータ州(AB)で2、プリティッシュコロンビア州(BC)で2、マニトバ州(MB)で1、ニューファンドランド・ラブラドール州(NL)で3、オンタリオ州(ON)で5、ケベック州(QC)で2)。また、インフルエンザの集団発生は今年の第1週目に急激に増加しました。1月第1週目に、国内から新たに107件の集団発生が報告され、過去2年間のどの週よりも著しく高い数となっています。ILI受診率も、昨年12月下旬に2週連続で、95%の信頼区間を越えました。新たに検査で確定診断されたインフルエンザに関連した小児の入院患者は、69人で55%は0～2歳でした。今年第1週目に検査で確定診断されたインフルエンザに関連した入院患者は298人で、このうち252人の亜型情報が利用可能でした。これらの患者の96.4%(252人中243人)がインフルエンザA型で、このうちおよそ51.4%(243人中125人)がインフルエンザA(H3N2)で、12.1%(243人中5人)がインフルエンザA(H1N1)pdm09でした。インフルエンザに関連した入院患者の半数以上(54%、298人中162人)が65歳以上でした。利用可能な138人のデータのうち、14.5%が集中治療室(ICU)に入院しました。1月第1週目に報告されたインフルエンザに関連した死亡者は14人報告されており、1人を除くすべてが65歳以上でした。除いた1人は0歳～4歳でインフルエンザA型でした。

カナダでは、依然として、インフルエンザA型が優勢であり、インフルエンザB型の検出は非常に少数です。1月第1週目に、インフルエンザが陽性となった3,864検体のうち、98.1%がインフルエンザA型であり、1.9%がインフルエンザB型でした。亜型が解析されたインフルエンザA型のうち、95.9%がインフルエンザA(H3N2)で、4.1%がインフルエンザA(H1N1)pdm09でした。シーズン当初から、国立微生物学研究所で193株のインフルエンザウイルスの抗原解析が行われました。193株のうち、143株がインフルエンザA(H3N2)で、25株がインフルエンザA(H1N1)pdm09で、25株がインフルエンザB型でした。インフルエンザA(H3N2)の143株はワクチン株のA/Victoria/361/2011に抗原的に類似していました。また、インフルエンザA(H1N1)pdm09の25株はワクチン株のA/California/7/2009に抗原的に類似していました。インフルエンザB型ウイルスのうち、21株はワクチン株のB/Wisconsin/01/2010(山形系統)に抗原的に類似しており、4株はB/Brisbane/60/2008(ビクトリア系統で、2011年から2012年の季節性インフルエンザワクチンに含まれていた株)に類似していました。ノイラミニダーゼ阻害薬のオセルタミビルまたはザナミビルに対する耐性が認められた検体はありませんでした(オセルタミビルに対する耐性は178検体で検査、ザナミビルに対する耐性は176検体で検査)。

米国でもインフルエンザの活動性は高い水準で維持されていますが、昨年12月末に数か所の地域ではピークに達したかもしれないという根拠がいくつかあります。ILIの受診率は、国の閾値である2.2%を超えたままですが、4.3%に減少しました。インフルエンザが陽性となった検体の割合も、昨年12月最終週の35.2%から32.8%となり、3週連続で減少しました。ほぼすべての州(47州)でインフルエンザの活動性が広範囲であると報告しています。122都市の死亡報告システムを通して報告された肺炎やインフルエンザによる全死亡の割合は、過去数週間で初めて国の閾値の7.2%(過去10シーズンの上限90%信頼区間)をわずかに超えましたが、一般的には例年並みのレベルです。昨年12月最終週にインフルエンザに関連した小児の死亡が2人報告されましたが、今シーズンはこれまでに合計20人報告されています(2011年-2012年は34人の小児死亡が報告)。いずれの死亡もインフルエンザA型に関連しており、1人はインフルエンザA(H3N2)でした。昨年10月1日から今年1月5日までの間に検査で確定診断されたインフルエンザに関連した入院患者は3,710人であると報告されており、人口10万人当たり13.3でした。2011年-2012年のシーズン末の入院患者の累積率を比較すると、比較のおだやかなシーズンだった2011年-2012年は8.6で、2010年-2011年は21.4でした。入院患者の最も高い年齢層は65歳以上で人口10万

人当たり53.4で、次いで0歳～4歳(人口10万人当たり22.4)であると報告されています。すべての入院患者のうち、86.2%(3,710人中3,198人)がインフルエンザA型で、13.0%(3,710人中484人)がインフルエンザB型ウイルスに関連していました。亜型解析されたインフルエンザA型の入院患者のうち、98.7%(777人中767人)がインフルエンザA(H3N2)で、1.3%(777人中10人)がインフルエンザA(H1N1)pdm09でした。予想されたとおり、検査で確定診断されたインフルエンザによる入院患者の割合で多くを占めていたのは、65歳以上の年齢層で、成人の入院患者で最も一般的な基礎疾患は代謝性疾患、心血管系疾患、肥満、喘息を除く慢性肺疾患であると報告されています。出産可能年齢の女性(15歳～44歳)の入院患者55人のうち、10人が妊娠していました。小児の入院患者で最も一般的な基礎疾患は喘息、神経学的疾患、免疫抑制状態でした。小児の入院患者の40%以上に基礎疾患は認められませんでした。

米国では、検出されているインフルエンザウイルスの大部分がインフルエンザA(H3N2)ですが、カナダに比べてインフルエンザB型の割合も高くなっています。1月第1週目にインフルエンザが陽性となった4,222検体のうち、80%がインフルエンザA型で、20%がインフルエンザB型でした。亜型の情報が得られたインフルエンザA型ウイルスのうち、98%がインフルエンザA(H3N2)でした。昨年10月1日以降、CDCは521株のインフルエンザウイルスの抗原解析を行いました。インフルエンザA(H1N1)pdm09の17株すべて、いずれも、A/California/7/2009-likeで、インフルエンザA(H3N2)の327株のうち99.4%は、A/Victoria/361/2011-likeでした。解析された117株のインフルエンザB型ウイルスのうち、66.7%は今シーズンに使用されている3価の季節性インフルエンザワクチンに含まれるB/Wisconsin/1/2010-like(山形系統)であり、33%はビクトリア系統でした。昨年10月1日以降に検査された、600株のインフルエンザA(H3N2)、70株のインフルエンザA(H1N1)pdm09(40株はザナミビルに対する検査)、230株のインフルエンザB型ウイルスでは、ノイラミニダーゼ阻害薬に対する耐性は認められませんでした。しかし、まれな散発例として、インフルエンザA(H1N1)pdm09とインフルエンザA(H3N2)のオセルタミビル耐性が、世界各地で検出されています。さらに詳しい情報は、CDCのホームページに掲載されています。

メキシコでは、インフルエンザの活動性が徐々に増加しています。昨年12月末までに、ILIと重症急性呼吸器感染症(SARI)で保健サービスを訪れた人の割合は、1%を下回ったままです。しかし、インフルエンザの陽性率はこの数週間で20%～40%になりました。国レベルでは、検出されたウイルスはインフルエンザB型が優性ですが、次いでインフルエンザA(H3N2)で、インフルエンザA(H1N1)pdm09は検出されませんでした。

・ヨーロッパ

ヨーロッパでのインフルエンザの活動性は特に北部と西部で増加し続けています。検体のインフルエンザ陽性率は前回WHO報告更新時の23%から37%に増加し、主にインフルエンザAウイルスの増加によるものです。ヨーロッパでのウイルスの型、亜型の構成割合は北米のそれと著しく異なっています。昨年10月のシーズン当初から定点、定点以外で分離されるインフルエンザウイルスの型は65%がインフルエンザAで、35%がインフルエンザBでした。インフルエンザA(H3N2)に対するA(H1N1)pdm09の割合は北米でのそれより高く、前回更新時から81%対19%(A(H1N1)pdm09対H3N2)と増加しました。

ヨーロッパ地域内各国では、2012年第52週には9ヶ国のみで増加が報告されたのに対し今回は16ヶ国で増加が報告されており、中程度から高度の活動性が前回は4ヶ国のみでしたが、今回は12ヶ国で報告されています。特にノルウェーは高い活動性を報告し、ILI並びにインフルエンザ陽性症例数の両方が年当初でシーズン高値に達した唯一の国です。ベルギー、デンマー

ク、ドイツ、アイスランド、アイルランド、スロバキア、スウェーデンは今回のインフルエンザシーズンで初めて中程度の活動性を報告し、一方フランスとイタリアは過去3週間と同程度の活動性を報告しました。

過去数週間にわたりSARI症例でインフルエンザが散発的に確認され、SARIでの入院は安定しており、そのほとんどが0歳から4歳の小児でした。

以前報告されたように、シーズン当初から抗原検査をされた85検体の90%は、WHOが推奨した現在の北半球での季節性インフルエンザワクチンウイルスと一致していました。ノイラミニダーゼ阻害剤(オセルタミビルとザナミビル)の感受性検査をしたウイルス81株で耐性は見つかりません。

・ アフリカ北部と地中海東部

過去数週間のインフルエンザ活動性は増加していましたが、最近インフルエンザ陽性検体数は徐々に減少してきています。この地域での検体中のインフルエンザA(H1N1)pdm09ウイルス陽性率は増加しており、現在優勢な亜型でインフルエンザ陽性検体中の大部分を占めています。例外はアルジェリアとパキスタンで、そこではインフルエンザBが最も多く、またエジプトではA(H3N2)ウイルスが優勢です。

・ アジアの温帯地域

アジアの温帯地域のほとんどでインフルエンザ活動性が増加しました。中国北部ではILI活動性が7週間連続で増加しました。国内定点機関から報告されるILIの割合は、前回報告の3.9%と比較し4.2%へ増加しました。検出されたインフルエンザウイルスの99%(101/102)がインフルエンザAで、残り1検体のみがインフルエンザB陽性でした。亜型解析されたインフルエンザAのうち、60%がA(H3N2)、40%がA(H1N1)pdm09でした。A(H1N1)pdm09がインフルエンザA亜型の1/5を占めていた前回の報告と対照的です。中国は、北部でのインフルエンザシーズンが先月12月に始まったと公式に発表しました。中国国家インフルエンザセンターで昨年10月から亜型が解析されたインフルエンザウイルスのうちインフルエンザA(H1N1)pdm09ウイルスの37株(97.4%)はA/California/7/2009-likeで、インフルエンザA(H3N2)ウイルスの256株(100%)はA/Victoria/361/2011(H3N2)-like; インフルエンザB/Victoriaウイルス112株(96.6%)はB/Brisbane/60/2008-like、B/Yamagataウイルス7株(100%)はB/Wisconsin/01/2010-likeでした。検査されたインフルエンザ検体でノイラミニダーゼ阻害剤であるオセルタミビルとザナミビルへの耐性は見つかりません。

モンゴルではILI活動性は、増加傾向だったこれまでの週と比較して減少しましたが、これは新年休暇期間の結果かもしれません。インフルエンザA(H3N2)が確認された亜型では最多でした。ここ数週間のILIの多くがRSウイルスやライノウイルス、ヒトコロナウイルスなどの他の呼吸器ウイルスによるものでした。

日本と韓国でのインフルエンザ活動性は増加しており、日本ではインフルエンザA(H3N2)、韓国ではA(H3N2)とA(H1N1)pdm09が主に検出されました。

【熱帯地域】

・ アメリカ大陸の熱帯地域

中米とカリブ海では、今年第1週目のインフルエンザ活動性は前週と比較し、ほぼ同じか減少し、晩夏のピークからは継続的に減少しました。優勢なウイルス亜型はA(H3N2)とBであり、例

外的にキューバではA(H1N1)pdm09が見られました。

南米全体では、インフルエンザ活動性は今年第1週目に減少しましたが、パラグアイとボリビアでは例外的にわずかに増加しました。パラグアイではA(H3N2)とインフルエンザBが共に循環し、一方ボリビアではA(H3N2)のみの循環が中等度に増加したと報告されました。

・ サハラ以南のアフリカ

サハラ以南のアフリカのほとんどの国ではインフルエンザの検出は減少しています。以前ガーナで循環していたインフルエンザA(H1N1)pdm09ウイルスは現在シーズンオフのレベルまで減少しました。カメルーン、マダガスカル、ザンビアでも低レベルでのインフルエンザBが報告されました。

・ アジアの熱帯地域

東南アジアのほとんどの国では、インフルエンザの活動性は、前週と同様に低レベルでの循環が続いています。

インドでのインフルエンザ活動性はシーズンオフのレベルで、わずかな検出のほとんどがインフルエンザA(H1N1)pdm09で、時々インフルエンザBも検出されました。

スリランカでは前週と同レベルでの循環が続いており、しかしながら、以前に検出されたA(H1N1)pdm09の割合は減少し、その結果A(H3N2)とインフルエンザBが優勢に検出されるウイルス亜型となりました。インフルエンザA(H3N2)とインフルエンザBウイルスがカンボジアとタイでも検出されました。

ベトナムでは、この地域としては変則的ですが、しかし優勢なインフルエンザBの検出の減少が引き続き報告され、一方ラオスではインフルエンザA(H3N2)とインフルエンザBが共に循環しています。

シンガポールと香港特別自治区を含む中国南部でのインフルエンザ活動性はシーズン閾値より低いレベルのままですが、シンガポールでは国内警報レベルに達し、中国南部では1,089検体のうち56検体(5.1%)がインフルエンザ陽性:46検体(82%)がインフルエンザA、10検体(18%)がインフルエンザB(系統不明)でした。インフルエンザAウイルス亜型は82%がA(H3N2)、18%がA(H1N1)pdm09でした。

【南半球の温帯地域】

南半球の温帯地域のすべての国で、インフルエンザ活動性は現在シーズンオフのレベルです。



感染症の話

*本記事は、国立感染症研究所ホームページ(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/>)に掲載されている各疾患の説明「[トキソプラズマ症](#)」を掲載しています。

トキソプラズマ症

トキソプラズマ症は、トキソプラズマ(*Toxoplasma gondii*)というアピコンプレクサに属する一属一種の寄生性原生生物(原虫)により起こされる感染症である。トキソプラズマはほぼ全ての温血脊椎動物(哺乳類・鳥類)に感染能を持つ。一度感染すると終生免疫が継続するが、感染率は国・地域・年齢によって異なる。食肉習慣やネコの抗体保有率、衛生状態などが複雑に関連すると考えられる。ブラジル、フランスなどで感染率が高い^{1,2)}。世界的に見ると全人類の1/3以上(数十億人)が感染しているとされるなど非常に広く蔓延していることが知られている。健常者が感染した場合は、免疫系の働きにより臨床症状は顕在化しないか軽度の急性感染症状を経過した後で、生涯にわたり保虫者となる。しかし、HIV感染患者などの免疫不全者には重篤な症状を引き起こすため、十分な注意が必要である。また、妊娠中の女性が感染することにより起こる先天性トキソプラズマ症は、死産および自然流産だけではなく児に精神遅滞、視力障害、脳性麻痺など重篤な症状をもたらすことがある。

病原体

トキソプラズマは幅3 μm、長さ5-7 μmの半円～三日月形をした原虫である(図1)。細胞内寄生性であり、環境中で単独では増殖しない。トキソプラズマの生活環は終宿主内での有性生殖と中間宿主内での無性生殖のステージからなる(図2)。有性生殖はネコ科動物の腸管上皮内でのみ成立するが、無性生殖はヒトや家畜など全ての温血動物で可能である。

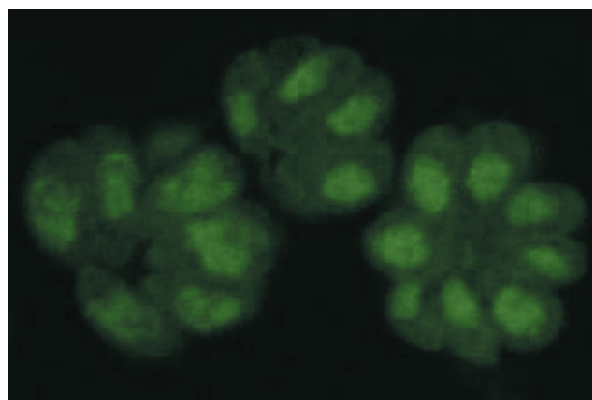


図1. トキソプラズマ

GFPを発現しているトキソプラズマ原虫。トキソプラズマは宿主細胞内でエンドダイオジェニーとよばれる独特の2分裂を繰り返し、図のように花びら状に増殖する。

中間宿主への感染は、他の中間宿主組織シストまたは終宿主であるネコ科動物のオーシストを経口摂取することによる。摂取されたトキソプラズマは、消化管壁から中間宿主の細胞内に侵入し、エンドダイオジェニー(内生2分裂)とよばれる特徴的な2分裂を行い活発に増殖する。急性感染期に宿主が妊娠中であれば原虫が胎盤を通過して胎児に移行する。宿主側の免疫応答が開始されると、トキソプラズマは中枢神経系や筋肉内で組織シストと呼ばれる構造をとる。組織シストは安定な壁に覆われているため、トキソプラズマは免疫系の攻撃を受けずに生存を続ける。組織シスト内部での原虫増殖は緩やかであり、この時期の原虫をブラディゾイト(緩増虫体)と呼ぶ。ヒトを始めとする中間宿主が感染中間宿主を摂食することに伴い組織シストを経口摂取するとトキソプラズマは新たな宿主内で同様に増殖を開始する。

終宿主であるネコ科動物が感染中間宿主を捕食すると、組織内に存在する組織シストからトキソプラズマは遊離して腸管上皮に侵入する。原虫は数回の無性生殖を行った後、有性生殖

により雌性、雄性配偶子を形成する。両者は腸管内部で融合し、未成熟オーシストとして糞便などとともに体外に放出される。未成熟オーシストは一定時間中に分裂し、一つのオーシストの中に8個の虫体が含まれた成熟オーシストとなる。

以上のように、トキソプラズマは他の多くの寄生原虫と同様に、生活史に中間宿主と終宿主の両方を必要とする。一方でトキソプラズマでは、中間宿主-中間宿主の感染が成立するという点が大きな特徴となっており、この形質が本原虫の急速な拡散、遺伝的均一性の増加をもたらしたと考えられている。

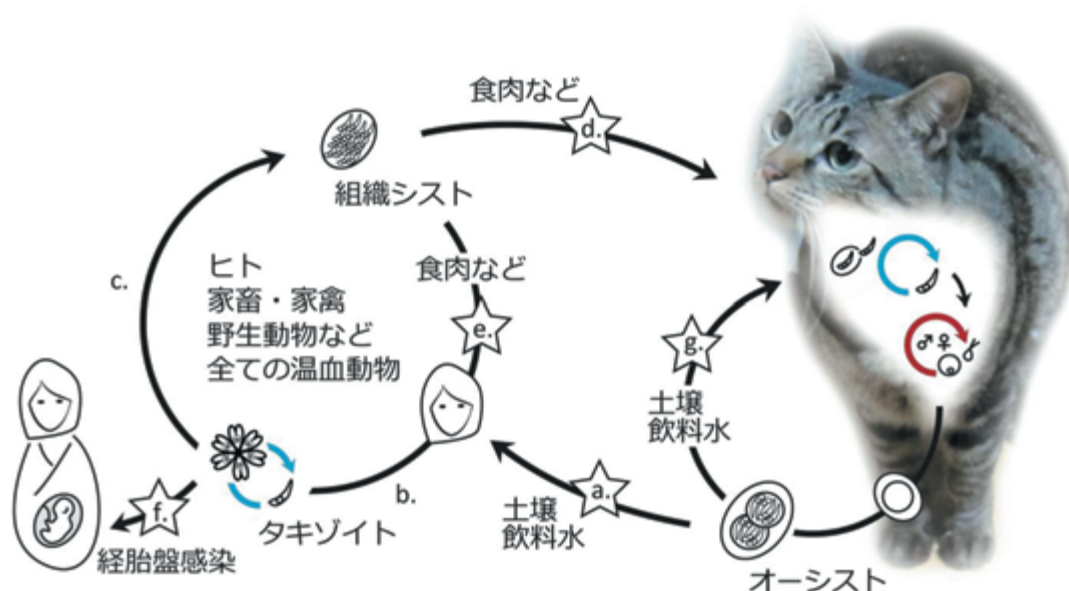


図2. トキソプラズマの生活環

筑波大学大学院松原立真氏提供。 は新たな宿主に伝播可能な経路を示す。a)感染はネコ科動物から排出されたオーシストを経口摂取することで生じる。b)オーシストは体内に侵入し、タキゾイトとして活発に増殖する。c)免疫系の活性化に伴い、抵抗性のある組織シストを形成して内部でブラディゾイトに分化する。d)中間宿主を捕食することで、組織シストがネコ科動物に取り込まれると腸管内で有性生殖が起きる。e)組織シストは中間宿主に摂取されると新たな宿主内で再びタキゾイトとなり増殖する。f)妊娠中に初感染すると、経胎盤感染により胎児に先天性トキソプラズマ症を引き起こす。g)伝播は終宿主であるネコ科動物同士でも可能である。青矢印は無性生殖、赤矢印は有性生殖を示す。

ヒトへの感染

トキソプラズマのヒトに対する感染は、加熱の不十分な食肉に含まれる組織シスト、あるいはネコ糞便に含まれるオーシストの経口的な摂取により生じる。眼瞼結膜からも感染するが、空気感染、経皮感染はしない。

日本では主な感染源として従来豚肉が重要視されてきた。ブタのトキソプラズマ症の報告については少なくなっているものの、依然として報告例があり、特に沖縄県においてはむしろ発生数に増加傾向が見られ、注意が必要である³⁾。沖縄県においてブタのトキソプラズマ症は、

と畜検査における全部廃棄対象疾病の中でもいまだ上位を占めている。ブタに限らずトキソプラズマは全ての温血動物に感染可能であるため、魚介類を除き、哺乳類である鯨を含めた獣肉や鳥肉の生食や加熱不十分は常に感染のリスクを伴う。妊婦もしくはその可能性のある方は、肉の生食は控えるとともに、肉を調理する際には、中心部まで十分に加熱することやまな板を肉用とその他用に分けるなどの対応が必要である。なお、食肉中のシストの不活化には、中心が67℃になるまでの加熱⁴⁾、あるいは中心が-12℃になるまでの凍結⁵⁾が有効であるとされる。電子レンジによる加熱では内部温度の十分な上昇が得られないため必ずしも確実であるとはいえない⁶⁾。なお冷蔵処理では原虫の感染能を排除できないため注意が必要である。

食肉以外にも、近年は水や土壌由来の感染事例が散見され、特に水系伝播ではアウトブレイクが報告されるなど、環境からの感染リスクも無視出来ないものとなっている⁷⁻⁹⁾。環境からのトキソプラズマ感染は、終宿主であるネコの糞便に含まれるオーシストにより引き起こされる。オーシストは-20℃で1ヶ月程度生存可能であることが示され¹⁰⁾、また次亜塩素酸やエタノールを含む多くの消毒剤が無効であるため注意が必要である。ガーデニングやすな場など土壌との接触、感染したネコとの接触、井戸水、わき水等の無処理の生水の摂取は感染の確率を上昇させる。感染したネコがオーシストを排出するのは、初感染後数日からおよそ2週間までの間のみであり、また、排出されたオーシストが成熟し感染能を獲得するまでに少なくとも24時間を要するとされるため、糞便の処理を毎日24時間以内で実施することにより感染力のあるオーシストとの接触を回避できる(このときトイレ容器は熱湯で消毒することが望ましい)。よって、妊娠を理由に飼いネコを処分する必要はないが、猫の糞便の処理は妊婦以外の者が行うことが望ましい。

臨床症状・診断

トキソプラズマの臨床症状は感染時期や感染者の状況に大きく左右される。そこで病型ごとに分けて症状を記載する。また診断は臨床症状と血清診断、遺伝子検査が主なものとなる。最近発表された1997年7月から2004年12月までの約7年半にわたる宮崎県での計4,466例の妊婦の抗体検査による調査結果では、妊婦の抗体保有率は全体で10.3%、35歳以下の若年者で9.6%であることが報告されており¹¹⁾、妊娠中の女性や免疫不全者は、感染予防に留意が必要である。

1. 先天性トキソプラズマ症

妊娠中の女性がトキソプラズマに初感染した場合、トキソプラズマが胎盤を通過して胎児に垂直感染する可能性がある。胎児への感染率は妊娠末期になるほど上がるが、胎内感染が起こった場合の重症度は妊娠初期ほど高い¹²⁾。胎内感染の転帰は、不顕性から流死産まで様々であり、顕性感染の場合でもその重症度は様々である。先天性トキソプラズマ症では、水頭症、脈絡膜炎による視力障害、脳内石灰化、精神運動機能障害が4大徴候として知られている。その他、リンパ節腫脹、肝機能障害、黄疸、貧血、血小板減少等が見られることもある。不顕性感染となった場合も、眼病変などはおおよそ思春期頃まで遅発性の発症のリスクがあるとされている。

妊婦の感染を疑う場合、妊婦の抗体検査(IHA法、LA法など)、IgM抗体検査(ELISA法など)やIgGアビディティ(avidity, 結合力)検査で、胎児の感染リスクを評価する。高リスクの場合は、羊水から原虫遺伝子をPCR法により検出することにより胎児感染診断を試みることがあるが、確実な方法ではない。出生後の診断のためには移行抗体消失後に児の血清検査を行

う。IgGアビディティ(avidity, 結合力)検査やPCR法による検査は未承認であり、今後の確立が求められる。

2. 後天性トキソプラズマ症

(1) 急性感染

健康成人または小児が後天的にトキソプラズマに感染した場合、多くは無症状で経過する。発症した場合、発熱や倦怠感やリンパ節腫脹などの非特異的な一過性の症状が起こり、時に伝染性単核症様の病態を呈する。通常、特異的IgGとIgMの抗体価測定により血清学的な診断を行う。

(2) 眼トキソプラズマ症

眼に孤発して発症する。先天性感染の再活性化で生じることが多く、後天性感染で発症することは稀である。症状としては、視力障害、眼痛、羞明などが見られる。

(3) 日和見トキソプラズマ感染症

免疫不全者では、体内に潜伏感染していたトキソプラズマが再活性化し、脳炎や肺炎や脈絡網膜炎などの重篤な症状を引き起こす。トキソプラズマ脳炎の臨床症状としては意識障害、けいれん、視力障害などがあげられる。また、頭部造影CTやMRIで、病変はリング状に造影される腫瘍として認められる。

トキソプラズマ脳炎の診断は、PCRによる髄液からの原虫遺伝子の検出によるが、感度が低く、陰性であっても感染は否定されない。

治療

2012年11月現在、海外で使用されるピリメタミンやスルファジアジンなどは日本では未承認となっている。また、スピラマイシンの類薬であるアセチルスピラマイシンなどの国内承認薬もトキソプラズマ症が適応症となっていない。そのため、適応外使用や個人輸入により治療が行われており、今後国内での開発が期待される。海外での実際は文献12に詳しい。

疫学

1. トキソプラズマ症の疫学

前述の宮崎県における妊婦の抗体検査による調査結果では、0.25%が妊娠期間中にトキソプラズマ抗体が陰性から陽性へと陽転しており、妊娠中のトキソプラズマ感染が推定された¹¹⁾。先天性トキソプラズマ症の発生が疑われるが、前述の通り、不顕性遅発性の先天性感染は妊娠中や出生時の画像や肉眼所見による診断が困難であり、検査の確立やフォローが課題となっている。

また、トキソプラズマはHIV感染者に致死的な脳炎を引き起こして患者を死に至らしめることが知られており、アメリカでの統計によるとHIV感染患者の18-25%がトキソプラズマ脳炎を発症することが報告されており¹³⁾、本症で死亡するHIV感染者は米国で全患者の10%、欧州では30%に及ぶとされる¹⁴⁾。また、CD4細胞数が100/mm³以下に低下したHIV感染者の約30%にトキソプラズマの再燃が見られたとの報告もある。本邦においては、2011年までの日本国籍AIDS患者累計(5,158件)において、トキソプラズマ脳症は94例(1.8%)報告されている¹⁵⁾。

2. トキソプラズマ原虫の分子疫学

トキソプラズマは遺伝的な多様性が非常に低いことが知られている。本原虫の分子疫学は欧州と北米地域で詳細に調査されており、これらの地域に流布するトキソプラズマは3種のクローン(I～III型)にほぼ限定されることが報告されている¹⁶⁾。これらのクローンは約1万年前に出現したと推定されており、またその時期は人類が農耕や牧畜を始めた時期とほぼ一致することから、これらの3クローンは人類の農耕や牧畜に対して何かしらの有利な形質を持っており、人類社会の周辺に適応、選択されたのではないかとの仮説が提唱されている。また、各クローンはヒトやマウスに対する病原性やその分離される場所が異なることが知られている。I型のトキソプラズマは強毒性系統であり、先天性感染などの急性感染患者から分離される。マウスのLD₁₀₀(100%致死量)は10⁰、すなわち1である。II型は弱毒性系統であり、ヒトではAIDS患者など慢性感染の患者から分離され、マウスのLD₅₀は10³以上である。III型は主に家畜から分離され、マウスに対する毒性は非常に低く、基本的に無毒であることが知られている。

しかしながらこれらのトキソプラズマ分子疫学は欧米のヒトおよび家畜を対象としたものが大半であり、その他の地域や野生動物におけるトキソプラズマの分布と系統に関わる情報はほとんど明らかになっていない。事実、南米のトキソプラズマの遺伝的多様性は北米および欧州地域に比べ大きく異なっていることや¹⁷⁾、北米には主に野生動物に感染する新たな第4番目のサブタイプが存在し、ヒトへの感染源になり得ること¹⁸⁾など、最近新たな知見が次々と見出されている。このような中で日本を含むアジア地域におけるトキソプラズマの詳細な分子疫学調査はほとんど行われておらず、感染経路を含む感染の実数調査および病原性と分子系統の詳細な解析が望まれる。特に我が国は欧米諸国と地理的に隔てられており、また生肉嗜好性など食習慣も欧米人とはかなり異なっているため、欧米で用いられている遺伝子多型による病原性判定が適用可能かについても再確認が必要であるものと考えられる。

引用文献

- 1) 川名尚、小島俊行：母子感染，金原出版，2011
- 2) Dubey, J.P.: The history and life cycle of *Toxoplasma gondii*. in: *Toxoplasma gondii* (Weiss, L.M. and Kim, K. ed.), Academic Press, 2007
- 3) 喜屋武尚子、松原立真、永宗喜三郎：トキソプラズマ症と沖縄県におけるトキソプラズマの流行状況について .防菌防黴 41: 19-28, 2013
- 4) Dubey, J.P., Kotula, A.W., Sharar, A., Andrews, C.D., Lindsay, D.S.: Effect of high temperature on infectivity of *Toxoplasma gondii* tissue cysts in pork. J. Parasitol. 76: 201-204, 1990
- 5) Kotula, A.W., Dubey, J.P., Sharar, A.K., Andrews, C.D., Shen, S.K., Lindsay, D.S.: Effect of freezing on infectivity of *Toxoplasma gondii* tissue cysts in pork. J. Food Protection 54: 687-690, 1991
- 6) Lunden, A., Uggla, A.: Infectivity of *Toxoplasma gondii* in mutton following curing, smoking, freezing or microwave cooking. Int. J. Food Microbiol. 15: 357-363, 1992
- 7) Heukelbach, J., Meyer-Cirkel, V., Moura, R.C., Gomide, M., Queiroz, J.A., Saweljew, P., Liesenfeld, O.: Waterborne toxoplasmosis, northeastern Brazil. Emerg. Infect. Dis. 13: 287-289, 2007
- 8) Bowie, W.R., King, A.S., Werker, D.H., Isaac-Renton, J.L., Bell, A., Eng, S.B., Marion, S.A.:

- Outbreak of toxoplasmosis associated with municipal drinking water. *Lancet* 350: 173-177, 1997
- 9) Benenson, M.W., Takafuji, E.T., Lemon, S.M., Greenup, R.L., Sulzer, A.J.: Oocyst-transmitted toxoplasmosis associated with ingestion of contaminated water. *New Engl. J. Med.* 307: 666-669, 1982
 - 10) Frenkel, J.K., Dubey, J.P.: Effects of freezing on the viability of toxoplasma oocysts. *J. Parasitol.* 59: 587-588, 1973
 - 11) Sakikawa, M., Noda, S., Hanaoka, M., Nakayama, H., Hojo, S., Kakinoki, S., Nakata, M., Yasuda, T., Ikenoue, T., Kojima, T.: Anti-Toxoplasma Antibody Prevalence, Primary Infection Rate, and Risk Factors in a Study of Toxoplasmosis in 4,466 Pregnant Women. *Clin. Vaccine Immunol.* 19: 365-367, 2012
 - 12) Montoya, J.G., Liesenfeld, O.: Toxoplasmosis. *Lancet* 363: 1965-1976, 2004
 - 13) Kasper, L.H., Buzoni-Gatel, D.: Some opportunistic parasitic infections in AIDS: candidiasis, pneumocystosis, cryptosporidiosis, toxoplasmosis. *Parasitol. Today* 14: 150-156, 1998
 - 14) Hill, D., Dubey, J.P.: *Toxoplasma gondii*: transmission, diagnosis and prevention. *Clin. Microbiol. Infect.* 8: 634-640, 2002
 - 15) 平成23年エイズ発生動向年報 http://api-net.jfap.or.jp/status/2011/11nenpo/hyo_11.pdf
 - 16) Howe, D.K., Sibley, L.D.: *Toxoplasma gondii* comprises three clonal lineages: correlation of parasite genotype with human disease. *J. Infect. Dis.* 172: 1561-1566, 1995
 - 17) Khan, A., Fux, B., Su, C., Dubey, J.P., Darde, M.L., Ajioka, J.W., Rosenthal, B.M., Sibley, L.D.: Recent Transcontinental Sweep of *Toxoplasma gondii* Driven by a single Monomorphic Chromosome. *PNAS* 104: 14872-14877, 2007
 - 18) Khan, A., Dubey, J.P., Su, C., Ajioka, J.W., Rosenthal, B.M., Sibley, L.D.: Genetic analyses of atypical *Toxoplasma gondii* strains reveal a fourth clonal lineage in North America. *Int. J. Parasitol.* 41: 645-655, 2011

トキソプラズマ感染と妊娠へのリスク

健常な成人がトキソプラズマに感染した場合、殆どが無症状、あるいは風邪に似た軽微な症状がでる程度であり問題にはなりません。しかし女性が妊娠中に初めて感染すると、胎児も感染することがあり流産や水頭症など先天性障害を引き起こす可能性があります。妊娠前のブライダルチェックや、妊娠後の健診などでトキソプラズマ感染の有無をチェックしましょう。

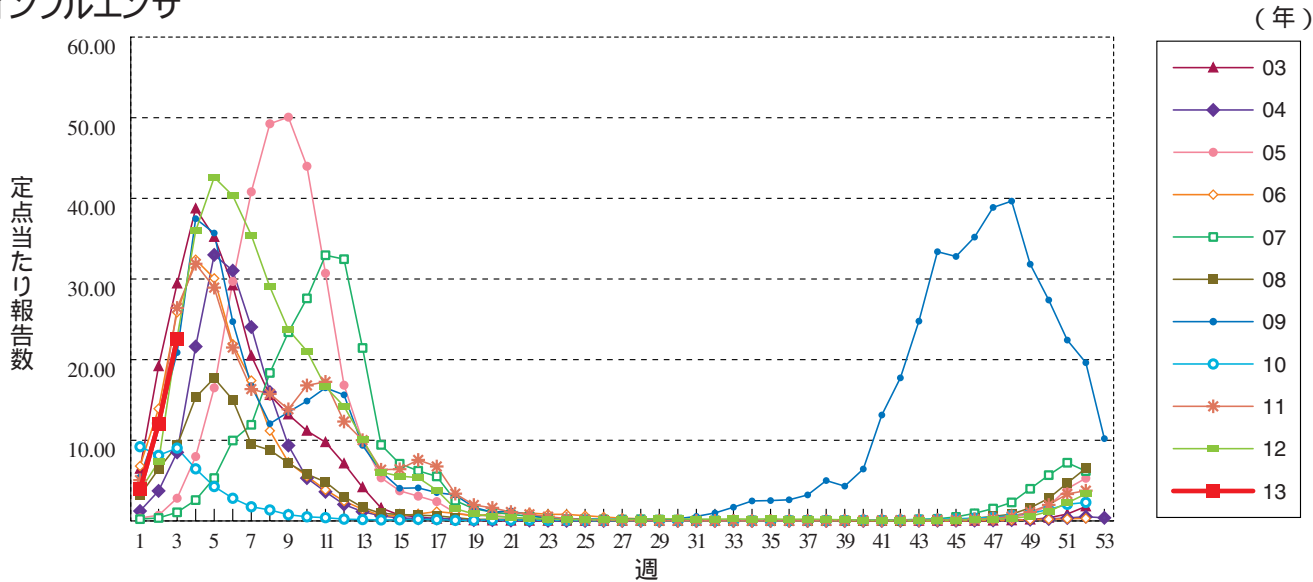
詳しくは感染研HP(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ta/toxoplasma/2211-para/3010-toxo-pregnant.html>)をご覧ください。

(国立感染症研究所・寄生動物部 永宗喜三郎)

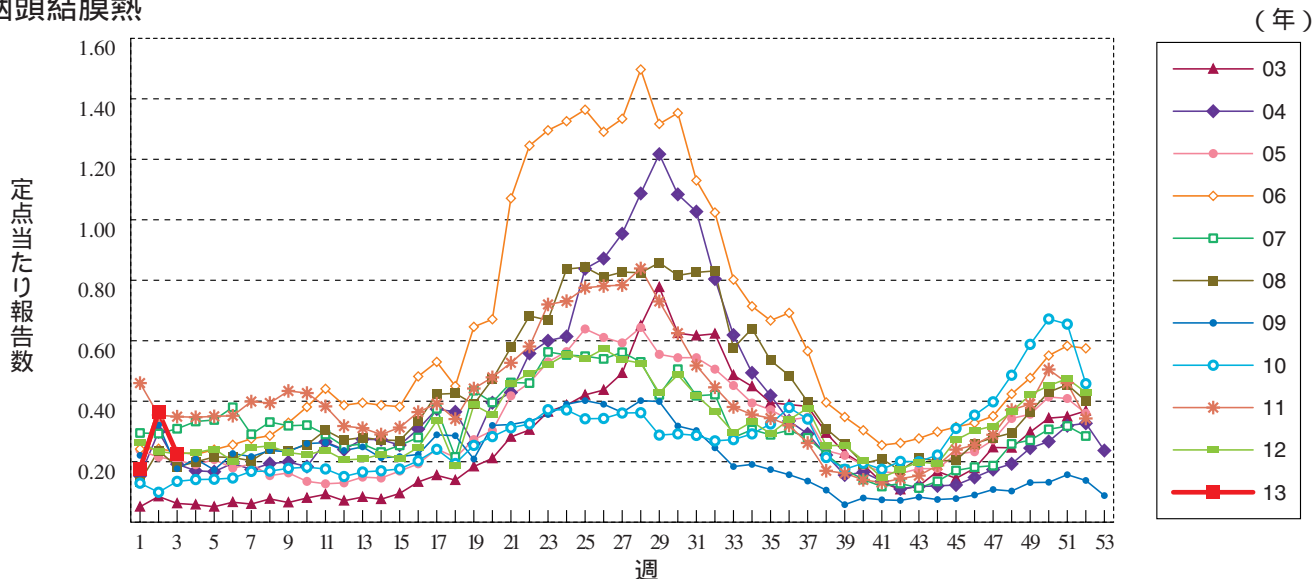


グラフ総覧(3週)

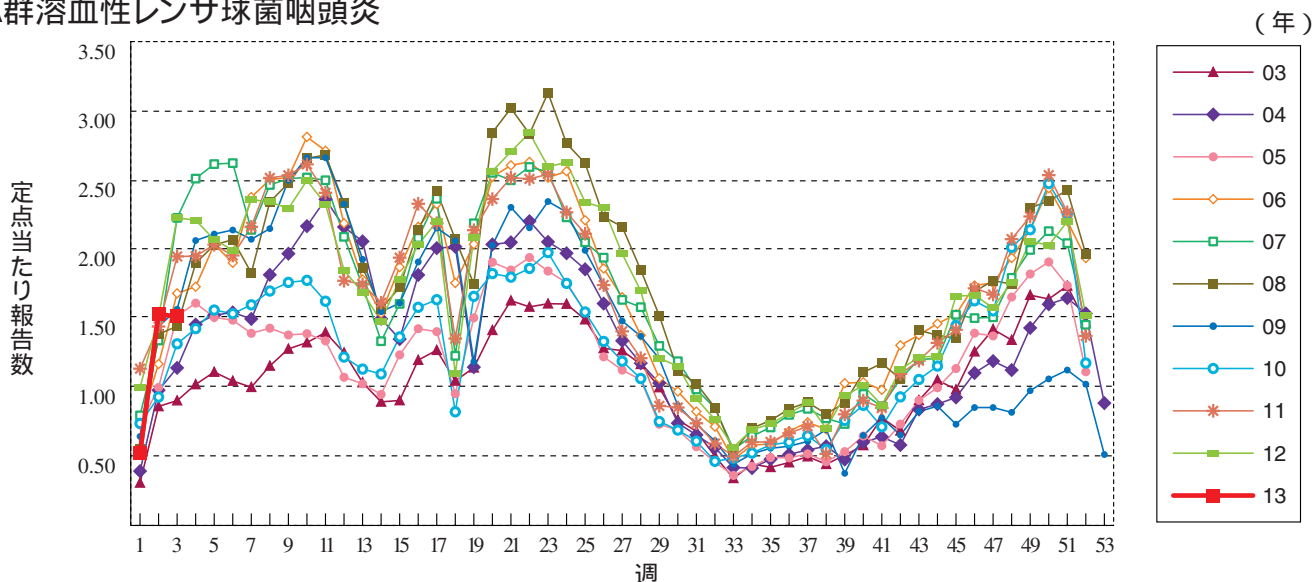
インフルエンザ



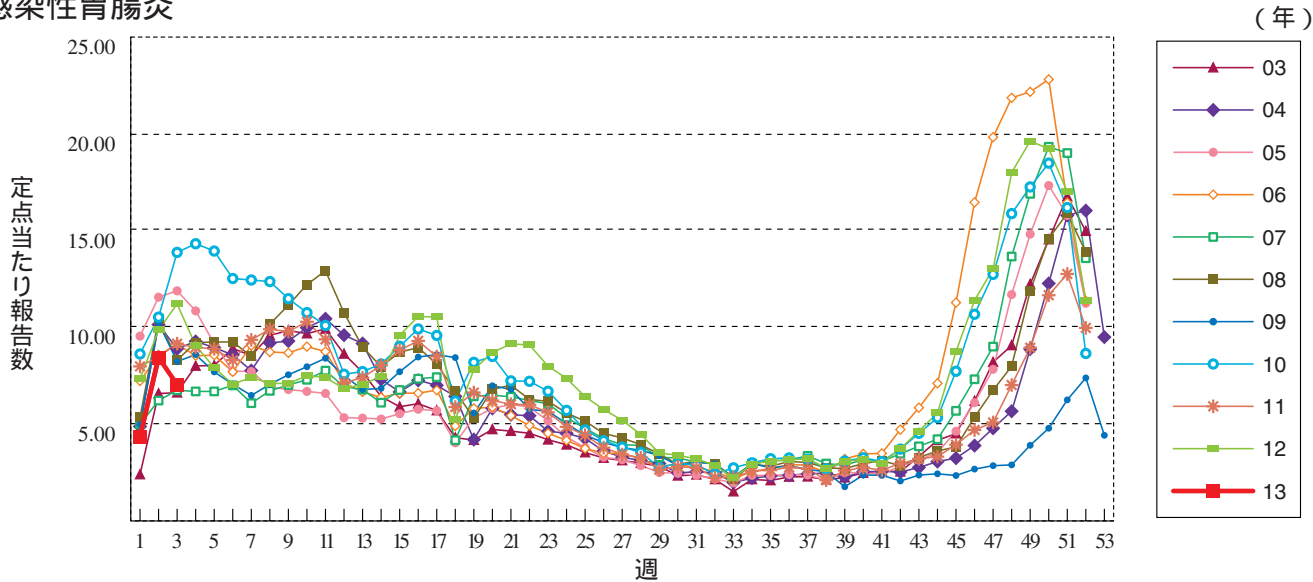
咽頭結膜熱



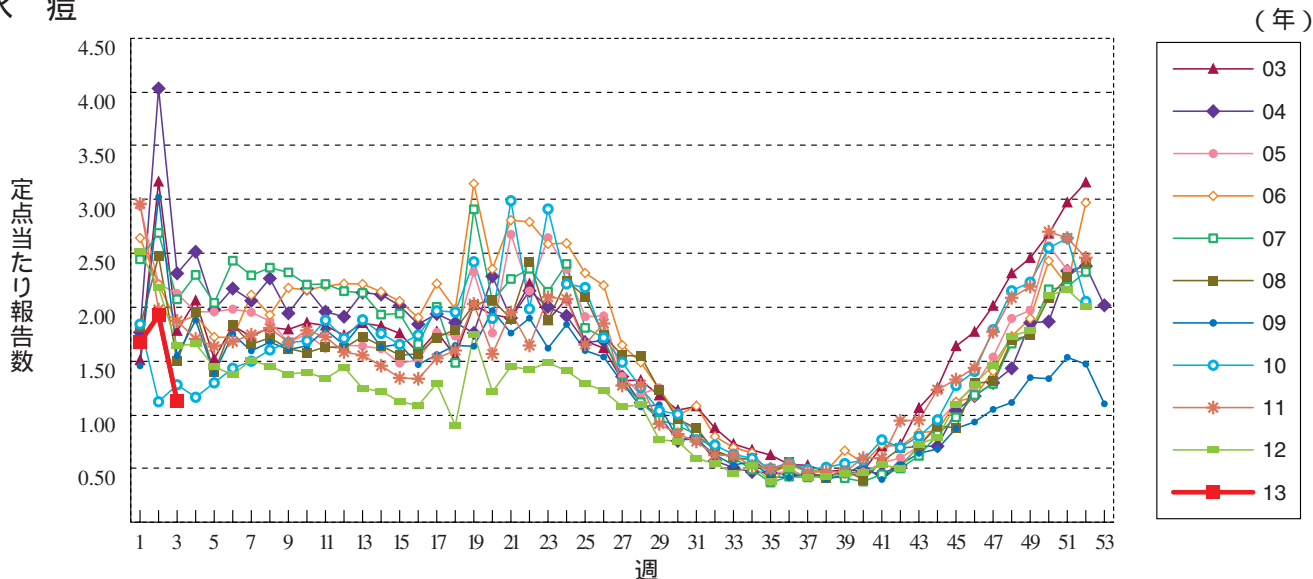
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



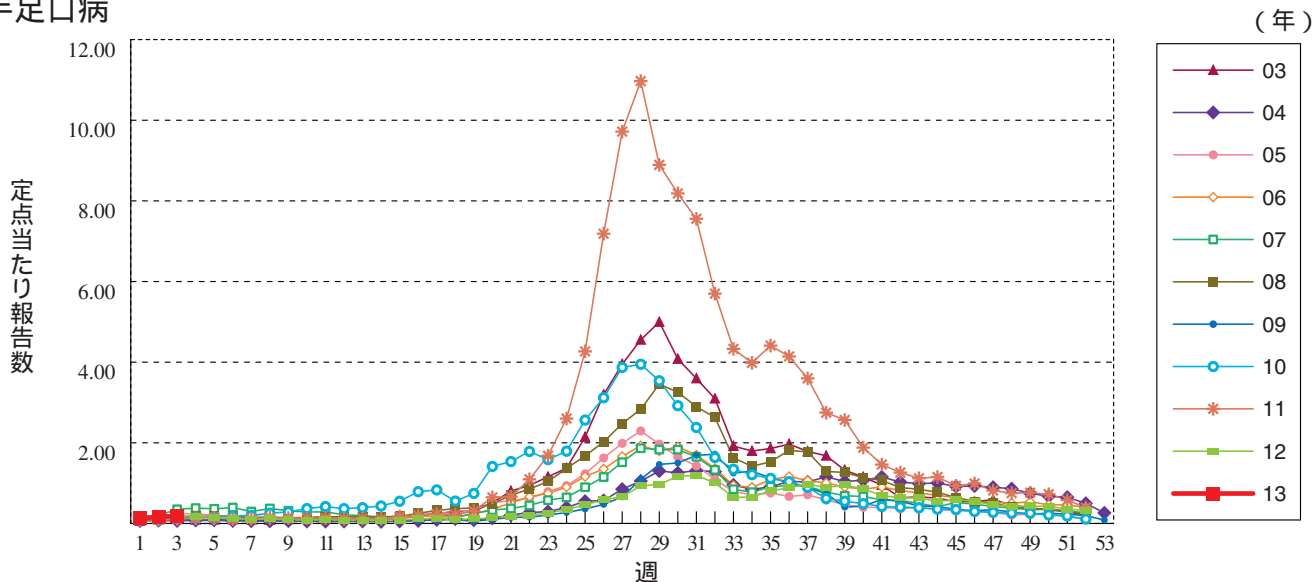
感染性胃腸炎



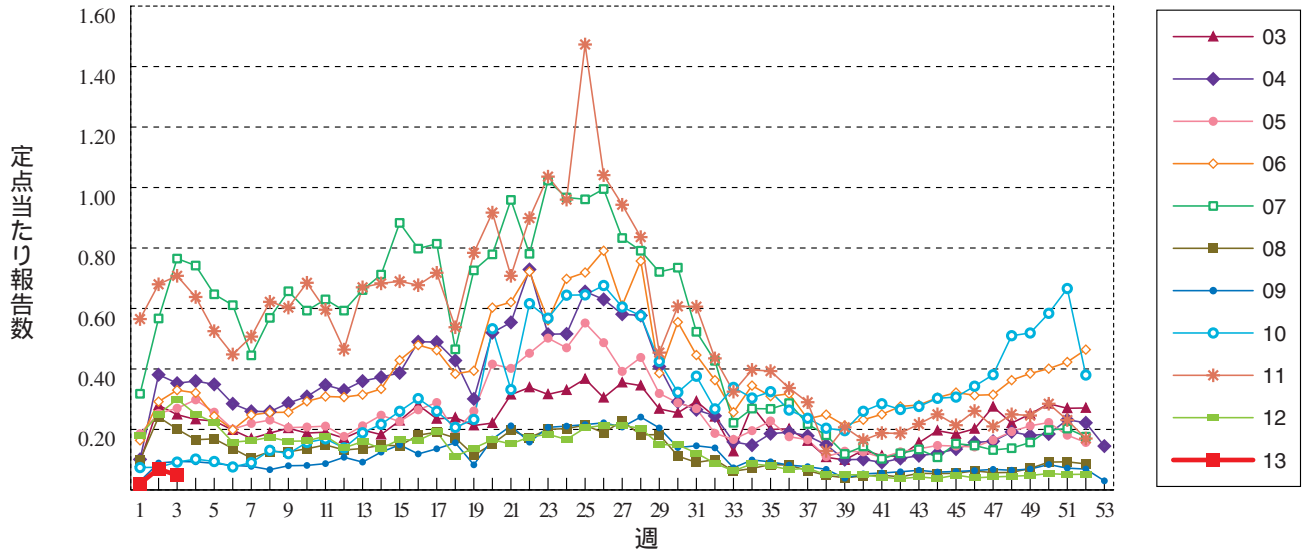
水痘



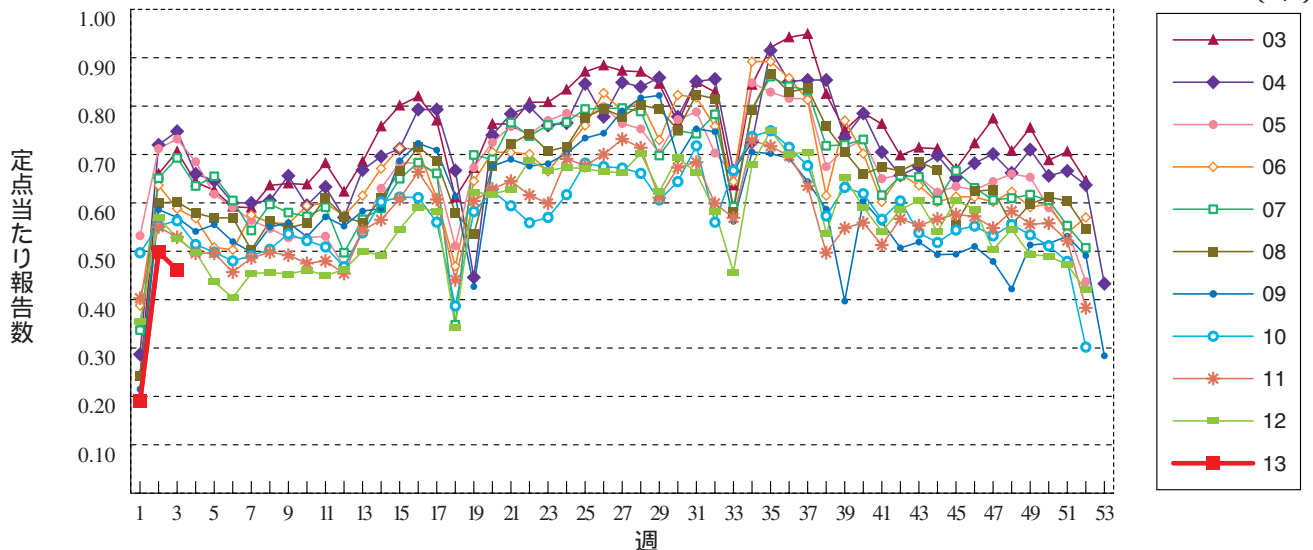
手足口病



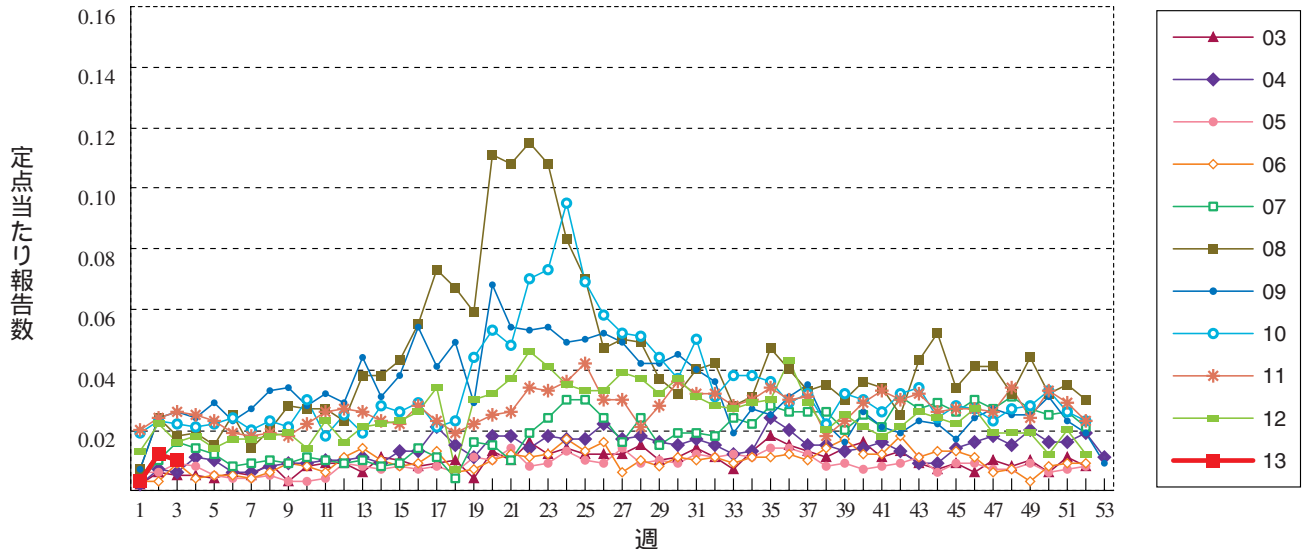
伝染性紅斑



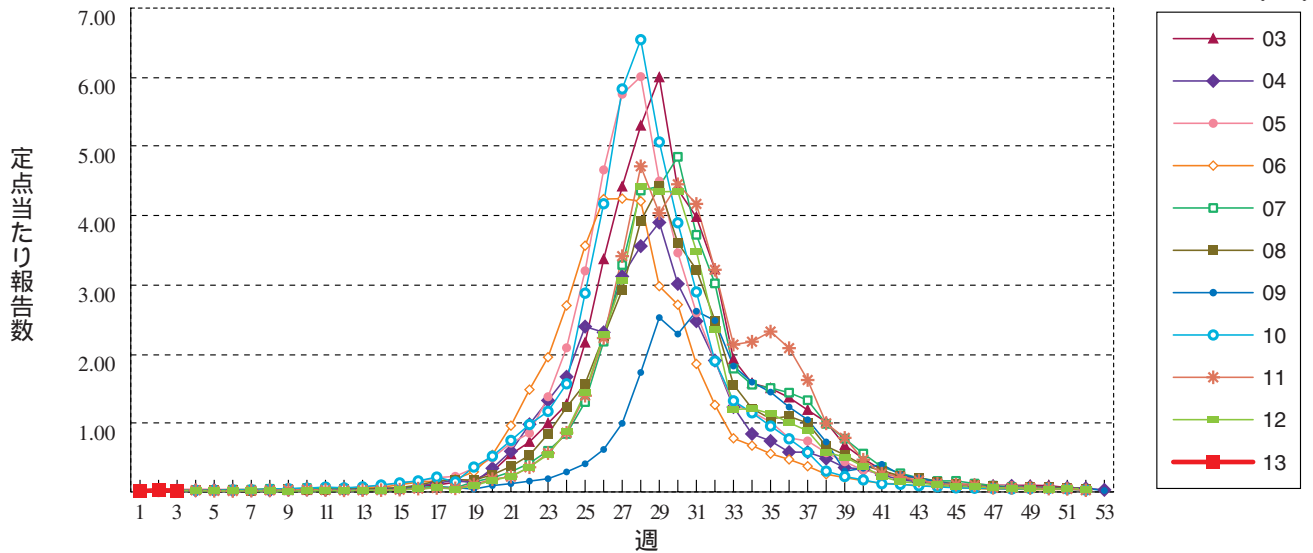
突発性発しん



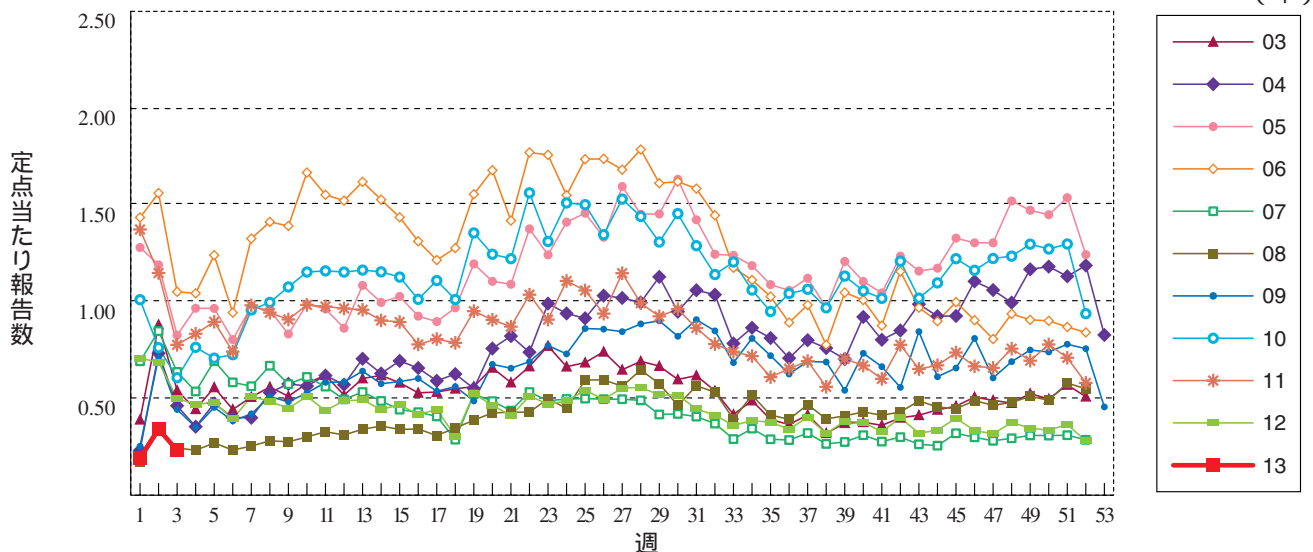
百日咳



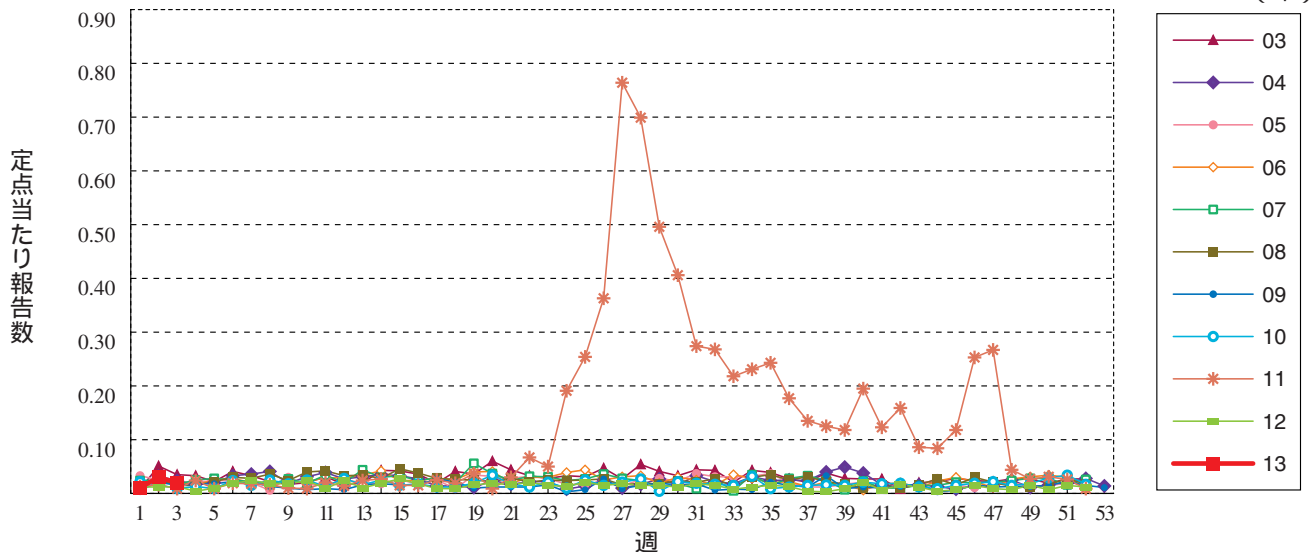
ヘルパンギーナ



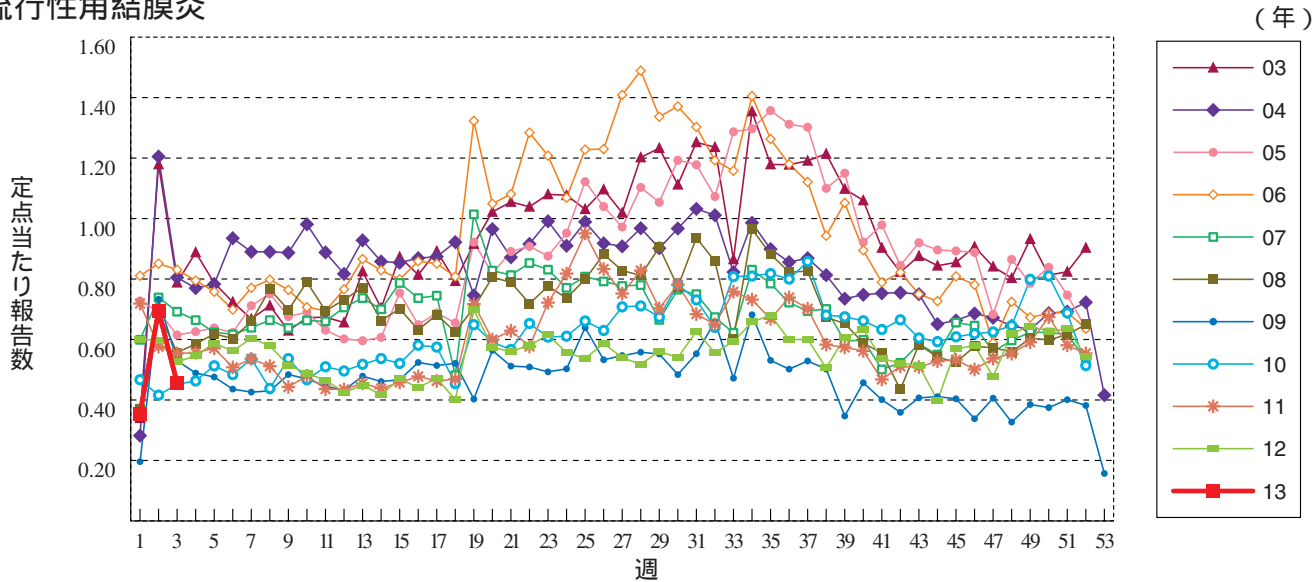
流行性耳下腺炎



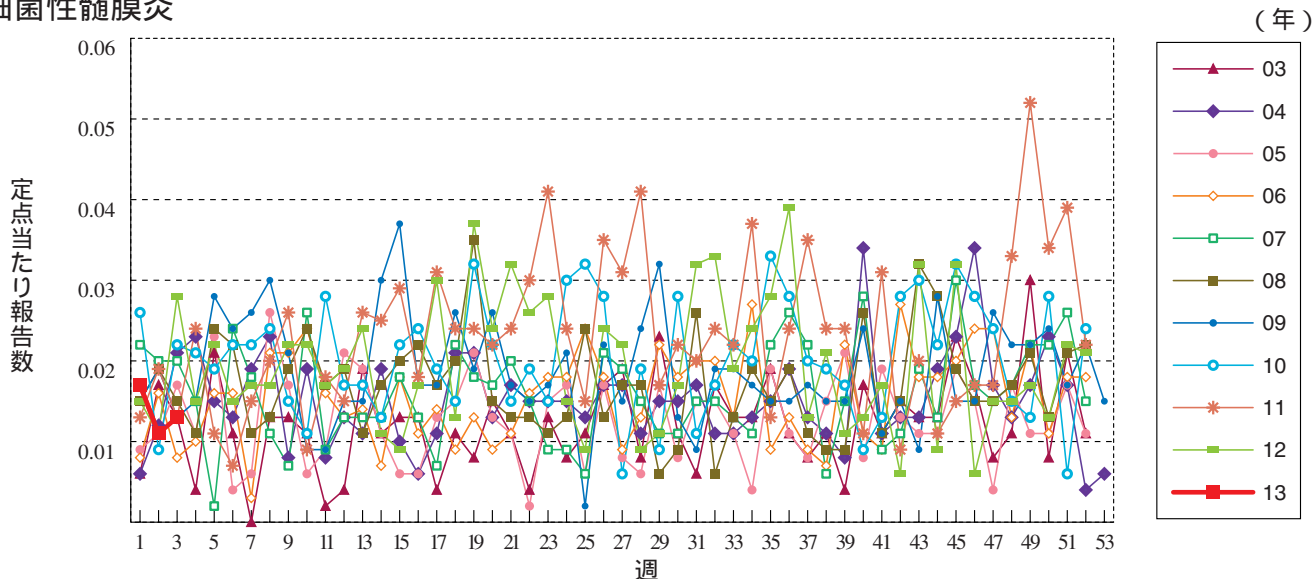
急性出血性結膜炎



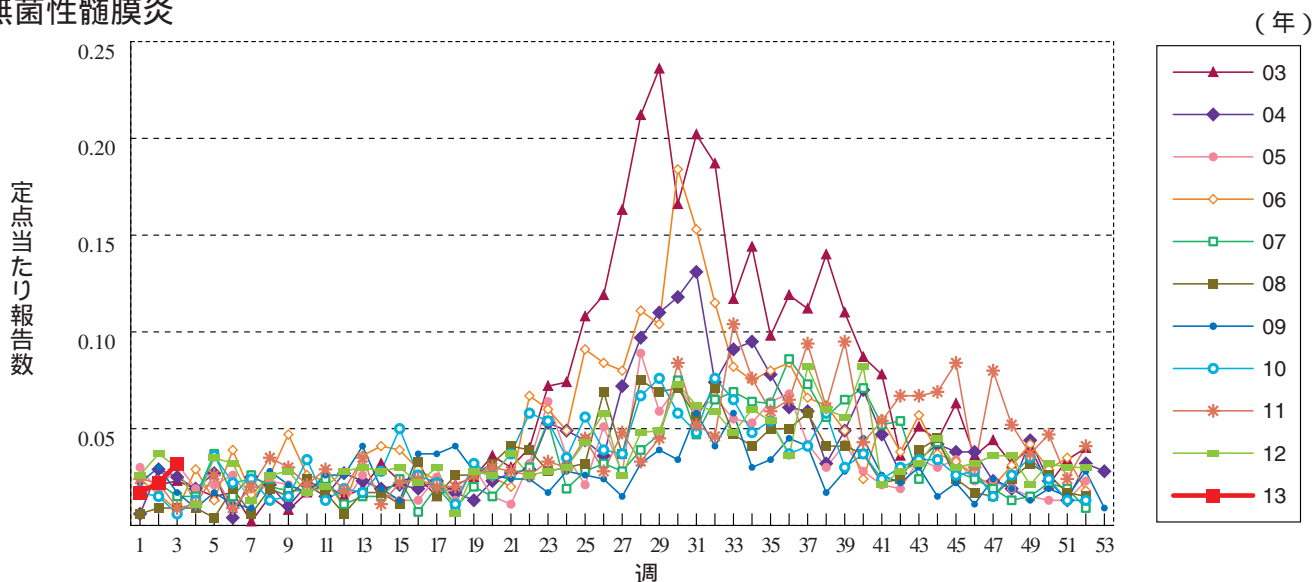
流行性角結膜炎



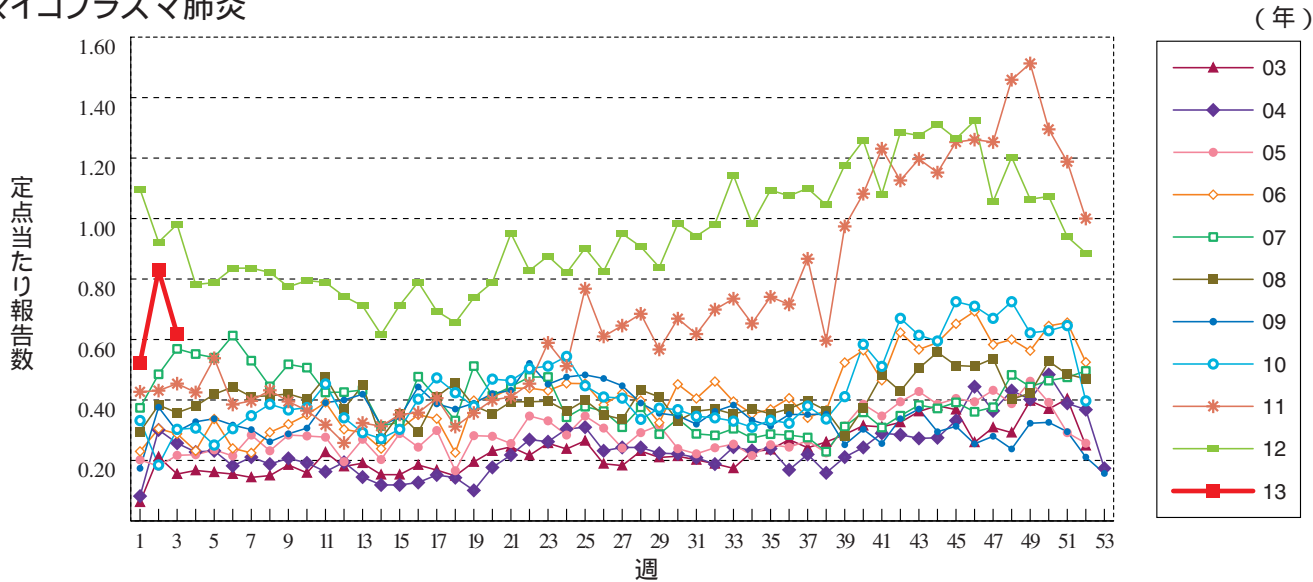
細菌性髄膜炎



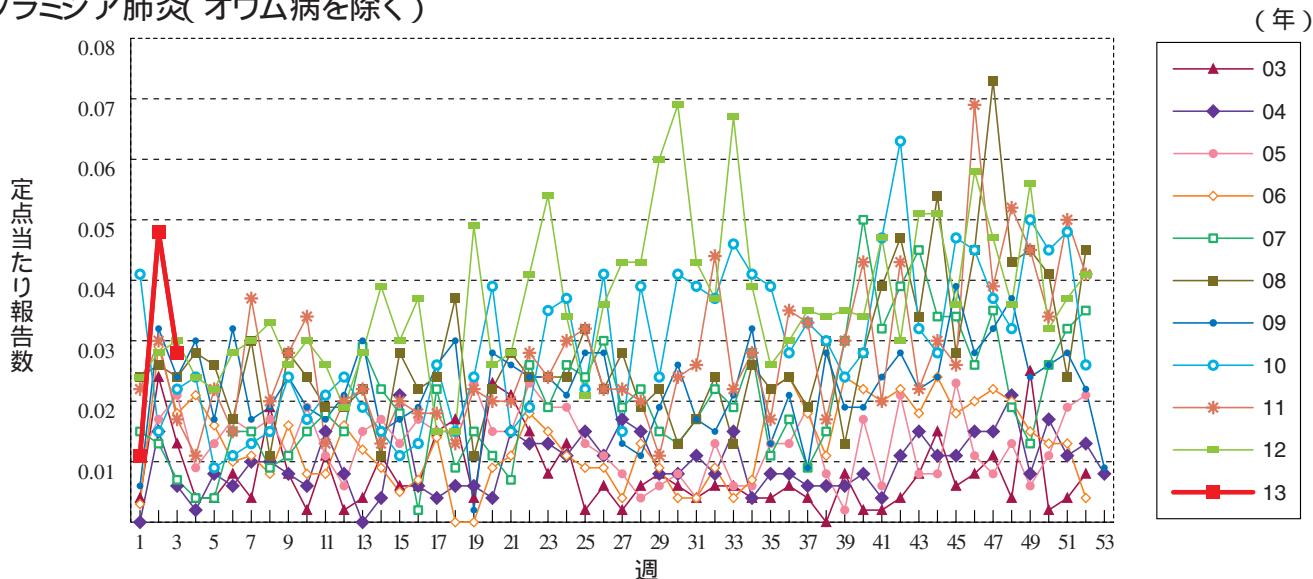
無菌性髄膜炎



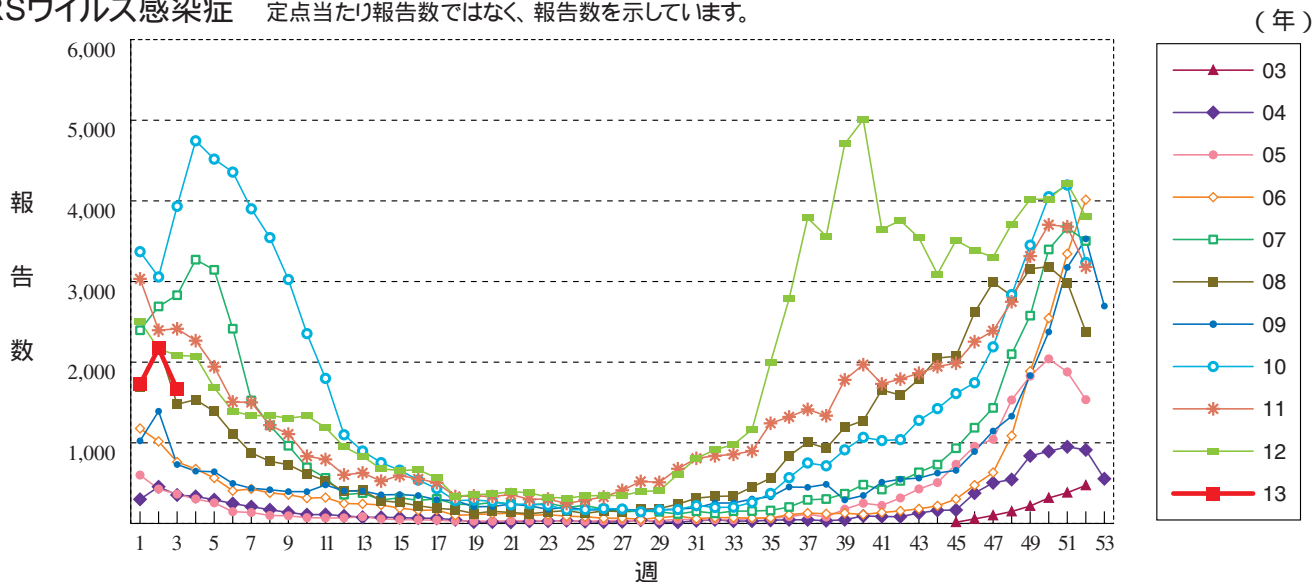
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎(オウム病を除く)



RSウイルス感染症 定点当たり報告数ではなく、報告数を示しています。





3週のデータ

注) 表中の報告数は1月23日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。
 新型インフルエンザは掲載していません。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2013年3週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		痘 そう		南米出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		急性灰白髄炎		結 核	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	276	850
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	15
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	17
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	8
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	8
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	12
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	10
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	21
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	13
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	7
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	39
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	9
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52	148
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	53
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	16
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	6
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	12
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	20
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	27
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	54
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	13
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	15
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	64
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	35
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	10
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	7
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	21
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	10
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	7
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	53
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	9
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	8
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	16
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	8
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	10
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4

*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年3週

	ジフテリア		重症急性 呼吸器症候群*		鳥インフル エンザ (H5N1)		コレラ		細菌性赤痢		腸管出血性 大腸菌感染症		腸チフス		パラチフス		E型肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	3	6	9	24	1	5	-	4	-	3
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	2	1	2	-	2	-	2
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	1	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年3週

	ウエストナイル熱		A型肝炎		エキノコックス症		黄熱		オウム病		オムスク出血熱		回帰熱		キャサナル森林病		Q熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年3週

	狂犬病		コクシジ オイデス症		サル痘		腎症候性出血熱		西部ウマ脳炎		ダニ媒介脳炎		炭疽		チクングニア熱		つつが虫病	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	16
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	9
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*鳥インフルエンザ(H5N1)を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年3週

	デング熱		東部ウマ脳炎		鳥インフルエンザ*		ニパウイルス感染症		日本紅斑熱		日本脳炎		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		鼻 疽	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	4	8	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年3週

	ブルセラ症		ベネズエラ ウマ脳炎		ヘンドラウイルス 感染症		発しんチフス		ポツリヌス症		マラリア		野 兎 病		ライム病		リッサウイルス 感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	5	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*E型肝炎およびA型肝炎を除く。

**ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2013年3週

	リフトバレー熱		類鼻疽		レジオネラ症		レプトスピラ症		ロッキー山 紅斑熱		アメーバ赤痢		ウイルス性肝炎*		急性脳炎**		クリプト スポリジウム症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	12	36	-	-	-	-	17	39	2	7	5	16	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	2	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	3	-	-	1	2	-	-
東京都	-	-	-	-	2	6	-	-	-	-	3	6	1	3	-	3	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	5	-	1	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-
富山県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	2	-	-	-	1	1	-	-
三重県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	2	5	-	-	-	-	1	4	-	1	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	1	2	-	-	1	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年3週

	クローンツェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		ジアルジア症		髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群		梅毒		破傷風		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	6	2	10	11	45	-	2	-	-	-	1	14	40	-	4	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-
東京都	-	1	-	1	3	13	-	-	-	-	-	-	4	13	-	2	-	-
神奈川県	-	1	1	3	1	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	1	-	-	2	6	-	-	-	-	1	1	6	-	-	-	-	-
兵庫県	-	1	-	1	2	2	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	1	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2013年3週

	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		風しん		麻しん	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	1	7	44	154	6	10
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	2	-	-
茨城県	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	1	-	-
埼玉県	-	-	6	15	1	1
千葉県	-	-	1	12	2	3
東京都	-	1	22	76	-	-
神奈川県	-	-	5	19	2	3
新潟県	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	1	1	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-
愛知県	1	3	3	6	-	-
三重県	-	-	-	1	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	1	-	1
大阪府	-	2	1	7	-	-
兵庫県	-	-	-	2	1	1
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	1	1	-	-
広島県	-	-	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	3	5	-	1
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	1	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	1	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	1	-	-

*鳥インフルエンザを除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2013年3週

	インフルエンザ*		RSウイルス感染症		咽頭結膜熱		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん	
	報告数	定点当り	報告数	報告数	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	111475	22.58	1663	711	0.23	4762	1.51	22171	7.04	3539	1.12	603	0.19	152	0.05	1455	0.46	
北海道	4480	19.74	96	44	0.31	247	1.74	287	2.02	123	0.87	16	0.11	2	0.01	44	0.31	
青森県	1156	18.06	8	1	0.02	35	0.85	183	4.46	33	0.80	3	0.07	-	-	15	0.37	
岩手県	1208	18.88	11	6	0.15	45	1.13	194	4.85	25	0.63	6	0.15	23	0.58	9	0.23	
宮城県	1749	18.81	30	10	0.17	72	1.24	394	6.79	104	1.79	15	0.26	4	0.07	33	0.57	
秋田県	675	12.27	6	11	0.31	38	1.09	282	8.06	26	0.74	9	0.26	-	-	17	0.49	
山形県	1032	21.50	6	14	0.47	105	3.50	199	6.63	32	1.07	5	0.17	-	-	19	0.63	
福島県	2936	38.63	39	4	0.09	73	1.62	271	6.02	60	1.33	9	0.20	2	0.04	25	0.56	
茨城県	4341	36.18	22	11	0.15	93	1.24	520	6.93	50	0.67	22	0.29	2	0.03	17	0.23	
栃木県	2406	32.08	16	3	0.06	46	0.98	207	4.40	40	0.85	6	0.13	5	0.11	20	0.43	
群馬県	3495	35.66	10	2	0.03	54	0.90	406	6.77	45	0.75	4	0.07	1	0.02	19	0.32	
埼玉県	7807	32.13	61	24	0.15	214	1.37	1161	7.44	160	1.03	26	0.17	5	0.03	79	0.51	
千葉県	7142	34.17	38	29	0.22	271	2.07	760	5.80	146	1.11	20	0.15	10	0.08	57	0.44	
東京都	9989	24.01	57	61	0.23	436	1.66	1917	7.32	209	0.80	30	0.11	23	0.09	125	0.48	
神奈川県	7806	23.30	45	28	0.14	264	1.28	1166	5.63	179	0.86	27	0.13	7	0.03	103	0.50	
新潟県	2642	27.81	11	16	0.27	190	3.17	317	5.28	68	1.13	30	0.50	3	0.05	36	0.60	
富山県	662	13.79	12	9	0.31	127	4.38	209	7.21	28	0.97	2	0.07	7	0.24	9	0.31	
石川県	793	16.52	6	6	0.21	134	4.62	176	6.07	24	0.83	8	0.28	-	-	10	0.34	
福井県	413	12.91	13	6	0.27	44	2.00	172	7.82	33	1.50	5	0.23	-	-	16	0.73	
山梨県	795	19.88	13	2	0.08	17	0.71	160	6.67	20	0.83	4	0.17	-	-	9	0.38	
長野県	2022	23.24	33	4	0.07	85	1.57	390	7.22	70	1.30	2	0.04	9	0.17	19	0.35	
岐阜県	1865	21.44	30	15	0.28	40	0.75	247	4.66	43	0.81	2	0.04	7	0.13	25	0.47	
静岡県	2797	20.12	68	16	0.18	119	1.34	707	7.94	91	1.02	9	0.10	2	0.02	39	0.44	
愛知県	5449	28.09	110	30	0.17	162	0.90	1280	7.07	144	0.80	3	0.02	7	0.04	72	0.40	
三重県	981	13.63	35	13	0.29	61	1.36	340	7.56	44	0.98	15	0.33	1	0.02	34	0.76	
滋賀県	945	17.83	17	5	0.16	46	1.44	176	5.50	38	1.19	1	0.03	-	-	11	0.34	
京都府	1708	13.89	15	10	0.13	101	1.35	443	5.91	82	1.09	1	0.01	3	0.04	21	0.28	
大阪府	3630	11.82	192	33	0.17	347	1.75	1285	6.49	224	1.13	22	0.11	2	0.01	90	0.45	
兵庫県	2907	14.61	102	51	0.40	108	0.84	953	7.39	175	1.36	1	0.01	1	0.01	46	0.36	
奈良県	682	12.40	17	7	0.20	20	0.57	193	5.51	25	0.71	-	-	1	0.03	9	0.26	
和歌山県	560	11.20	19	5	0.16	23	0.74	152	4.90	36	1.16	-	-	-	-	18	0.58	
鳥取県	576	19.86	27	-	-	61	3.21	165	8.68	26	1.37	2	0.11	1	0.05	9	0.47	
島根県	518	13.63	22	3	0.13	22	0.96	229	9.96	24	1.04	2	0.09	1	0.04	10	0.43	
岡山県	1291	15.37	25	6	0.11	49	0.91	455	8.43	61	1.13	3	0.06	-	-	21	0.39	
広島県	2128	18.50	58	18	0.25	95	1.32	720	10.00	67	0.93	10	0.14	6	0.08	19	0.26	
山口県	1268	18.38	60	8	0.17	110	2.29	407	8.48	95	1.98	7	0.15	3	0.06	34	0.71	
徳島県	457	12.03	52	8	0.35	34	1.48	222	9.65	21	0.91	1	0.04	-	-	13	0.57	
香川県	627	12.80	22	3	0.10	21	0.70	338	11.27	34	1.13	3	0.10	-	-	14	0.47	
愛媛県	1523	24.97	30	-	-	95	2.57	417	11.27	52	1.41	10	0.27	1	0.03	27	0.73	
高知県	608	12.67	40	-	-	16	0.53	341	11.37	34	1.13	2	0.07	2	0.07	10	0.33	
福岡県	6518	32.92	47	55	0.46	194	1.62	903	7.53	242	2.02	136	1.13	-	-	81	0.68	
佐賀県	1195	31.45	4	6	0.27	51	2.32	100	4.55	39	1.77	4	0.18	-	-	17	0.77	
長崎県	2415	34.50	23	10	0.23	52	1.18	431	9.80	70	1.59	5	0.11	2	0.05	28	0.64	
熊本県	1266	15.83	34	26	0.52	116	2.32	652	13.04	79	1.58	45	0.90	1	0.02	42	0.84	
大分県	1557	26.84	20	17	0.47	57	1.58	390	10.83	48	1.33	16	0.44	1	0.03	22	0.61	
宮崎県	1579	26.76	27	41	1.14	71	1.97	528	14.67	69	1.92	2	0.06	4	0.11	26	0.72	
鹿児島県	1717	18.46	24	32	0.58	82	1.49	623	11.33	120	2.18	28	0.51	3	0.05	29	0.53	
沖縄県	1159	19.98	10	2	0.06	19	0.56	103	3.03	81	2.38	24	0.71	-	-	7	0.21	

*髄膜炎菌性髄膜炎は除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2013年3週

	百日咳		ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎*		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	31	0.01	61	0.02	730	0.23	14	0.02	312	0.46	6	0.01	15	0.03	288	0.62	13	0.03
北海道	-	-	1	0.01	15	0.11	-	-	10	0.34	-	-	-	-	11	0.48	1	0.04
青森県	-	-	1	0.02	15	0.37	-	-	1	0.09	-	-	-	-	14	2.33	-	-
岩手県	1	0.03	1	0.03	35	0.88	-	-	7	0.50	1	0.05	1	0.05	18	0.95	-	-
宮城県	-	-	6	0.10	39	0.67	-	-	5	0.42	1	0.08	1	0.08	24	2.00	2	0.17
秋田県	-	-	-	-	18	0.51	-	-	2	0.29	-	-	-	-	9	1.13	-	-
山形県	-	-	-	-	23	0.77	-	-	1	0.13	1	0.10	-	-	8	0.80	-	-
福島県	2	0.04	1	0.02	9	0.20	-	-	10	0.83	-	-	-	-	17	2.43	-	-
茨城県	-	-	-	-	4	0.05	-	-	21	1.24	-	-	-	-	8	0.62	-	-
栃木県	2	0.04	-	-	6	0.13	-	-	4	0.33	-	-	-	-	4	0.57	4	0.57
群馬県	-	-	-	-	22	0.37	-	-	9	0.64	-	-	1	0.13	10	1.25	-	-
埼玉県	1	0.01	3	0.02	31	0.20	2	0.05	15	0.36	-	-	1	0.11	7	0.78	1	0.11
千葉県	1	0.01	1	0.01	31	0.24	-	-	13	0.38	-	-	-	-	3	0.33	-	-
東京都	2	0.01	4	0.02	39	0.15	-	-	16	0.42	1	0.04	4	0.16	16	0.64	-	-
神奈川県	7	0.03	4	0.02	48	0.23	2	0.05	31	0.72	-	-	-	-	1	0.14	-	-
新潟県	-	-	2	0.03	8	0.13	1	0.10	7	0.70	-	-	-	-	10	0.77	2	0.15
富山県	-	-	2	0.07	8	0.28	-	-	-	-	-	-	-	-	4	0.80	-	-
石川県	2	0.07	-	-	4	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.20	-	-
福井県	-	-	2	0.09	16	0.73	-	-	1	0.33	-	-	1	0.17	1	0.17	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	4	0.44	-	-	-	-	2	0.20	-	-
長野県	-	-	-	-	2	0.04	-	-	4	0.36	-	-	-	-	9	0.82	-	-
岐阜県	1	0.02	-	-	11	0.21	-	-	1	0.09	-	-	-	-	3	0.60	-	-
静岡県	1	0.01	1	0.01	20	0.22	-	-	6	0.27	-	-	-	-	7	0.70	-	-
愛知県	1	0.01	1	0.01	64	0.35	-	-	3	0.09	-	-	-	-	11	0.79	-	-
三重県	-	-	1	0.02	16	0.36	-	-	1	0.08	-	-	1	0.11	3	0.33	-	-
滋賀県	-	-	2	0.06	5	0.16	-	-	-	-	-	-	-	-	5	0.71	-	-
京都府	-	-	3	0.04	8	0.11	-	-	5	0.28	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	2	0.01	1	0.01	29	0.15	-	-	15	0.29	-	-	-	-	8	0.47	-	-
兵庫県	-	-	-	-	14	0.11	-	-	11	0.31	1	0.09	-	-	5	0.45	-	-
奈良県	1	0.03	-	-	4	0.11	-	-	2	0.22	-	-	-	-	1	0.17	-	-
和歌山県	-	-	-	-	6	0.19	1	0.25	-	-	-	-	-	-	7	0.64	-	-
鳥取県	-	-	-	-	2	0.11	-	-	1	0.33	-	-	-	-	1	0.20	-	-
島根県	-	-	-	-	1	0.04	-	-	1	0.33	-	-	-	-	3	0.38	-	-
岡山県	-	-	-	-	13	0.24	-	-	2	0.17	-	-	-	-	4	0.80	1	0.20
広島県	1	0.01	-	-	9	0.13	2	0.11	12	0.63	-	-	-	-	3	0.14	-	-
山口県	-	-	-	-	8	0.17	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.33	-	-
徳島県	-	-	-	-	5	0.22	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	3	0.10	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	0.03	2	0.05	4	0.11	-	-	7	0.88	-	-	-	-	4	0.67	-	-
高知県	1	0.03	-	-	4	0.13	-	-	-	-	-	-	-	-	8	1.00	-	-
福岡県	-	-	8	0.07	54	0.45	-	-	10	0.38	1	0.07	1	0.07	5	0.33	-	-
佐賀県	1	0.05	-	-	3	0.14	-	-	1	0.25	-	-	1	0.17	6	1.00	-	-
長崎県	-	-	10	0.23	23	0.52	5	0.63	3	0.38	-	-	1	0.08	3	0.25	-	-
熊本県	-	-	2	0.04	8	0.16	-	-	24	2.67	-	-	-	-	5	0.33	2	0.13
大分県	-	-	-	-	16	0.44	1	0.20	3	0.60	-	-	-	-	9	0.82	-	-
宮崎県	-	-	-	-	8	0.22	-	-	17	2.83	-	-	1	0.14	1	0.14	-	-
鹿児島県	-	-	2	0.04	9	0.16	-	-	10	1.43	-	-	-	-	2	0.17	-	-
沖縄県	3	0.09	-	-	10	0.29	-	-	13	1.30	-	-	1	0.14	4	0.57	-	-

報告数・疾病・都道府県別
 2013年3週

	インフルエンザ (入院患者)
	報告数
総 数	980
北海道	49
青森県	39
岩手県	65
宮城県	25
秋田県	17
山形県	30
福島県	35
茨城県	49
栃木県	22
群馬県	38
埼玉県	15
千葉県	36
東京都	71
神奈川県	45
新潟県	14
富山県	13
石川県	6
福井県	6
山梨県	14
長野県	29
岐阜県	5
静岡県	13
愛知県	48
三重県	4
滋賀県	12
京都府	7
大阪府	24
兵庫県	11
奈良県	5
和歌山県	13
鳥取県	16
島根県	6
岡山県	20
広島県	20
山口県	20
徳島県	8
香川県	-
愛媛県	10
高知県	7
福岡県	27
佐賀県	14
長崎県	7
熊本県	38
大分県	14
宮崎県	5
鹿児島県	1
沖縄県	7

獣医師が届出を行う感染症と対象動物

注 報告数は感染実験等の学術的研究による発生を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年3週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群(SARS)						結核		鳥インフルエンザ(H5N1)		細菌性赤痢	
	サル		サル		プレーリードッグ	イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		鳥類		サル		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2013年3週

	ウエストナイル熱		エキノコックス症	
	鳥類		犬	
	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-

感染症週報 第15巻 第3号 2013年2月1日発行
 発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター

〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1

T E L : 03-5285-1111

F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>

< 国立感染症研究所 感染症情報センター >

<http://www.mhlw.go.jp/>

< 厚生労働省 >

<http://www.forth.go.jp/>

< 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。